

文京区アカデミー推進計画の点検・評価及び実態調査の結果について

1 令和元年度アカデミー推進計画の点検・評価について

(1) 概要

「文京区アカデミー推進計画（平成28年度～令和2年度）」の点検・評価については、これまで計画の対象となる全事業の実績から各分野の評価を行っていたが、今年度はこれまでの評価に加え、対象事業のうち主要な事業について、特に成果や課題に着目した点検・評価を行った。

(2) 平成30年度分野別事業数

分 野	生涯学習	スポーツ	文化芸術	観 光	国際交流	5分野合計
主 要 事 業	33事業	54事業	41事業	27事業	19事業	174事業
その他事業	145事業	76事業	14事業	11事業	7事業	253事業
合 計	178事業	130事業	55事業	38事業	26事業	427事業

(3) 評価結果 別添別紙1のとおり

2 文京区アカデミー推進計画に関する実態調査の結果について

(1) 調査目的

「文京区アカデミー推進計画」の改定にあたり、生涯学習（学習活動）、スポーツ、文化芸術、観光、国内・国際交流に関する区民の意識、活動の状況及び要望等を把握するため、実態調査を行った。

(2) 調査対象者・調査方法

ア 区民向け調査	満 20 歳以上の区民 2,000 人程度を住民基本台帳から無作為抽出の上、郵送配付し、郵送またはインターネットによる回答にて実施
イ 事業参加者向け調査	事業参加者に QR コードを記載したアンケートを直接配付し、インターネットによる回答にて実施

(3) 調査期間

- ア 区民向け調査 令和元年9月20日(金)から令和元年10月11日(金)まで
イ 事業参加者向け調査 令和元年11月1日(金)から令和元年12月9日(月)まで

(4) 配付・回収

ア 区民向け調査	① 配付数 2,000 件 ② 有効回答数（率） 750 件（37.5%） ・ 郵送 650 件（有効回答のうち 86.7%） ・ インターネット 100 件（有効回答のうち 13.3%）
イ 事業参加者向け調査	① 有効回答数 150 件

(5) 調査結果 別添別紙2のとおり

**令和元年度
文京区アカデミー推進計画の点検・評価**

目次

第1部 平成30年度事業の点検・評価	1
第1章 事業の点検・評価の考え方	2
1. 概要	2
2. 体制と手法	2
第2章 生涯学習分野の点検・評価	3
1. 対象事業	3
2. 主要な事業の成果に対する評価	5
3. 分野別目標に対する事業を通じた達成状況	11
第3章 スポーツ分野の点検・評価	12
1. 対象事業	12
2. 主要な事業の成果に対する評価	14
3. 分野別目標に対する事業を通じた達成状況	21
第4章 文化芸術分野の点検・評価	22
1. 対象事業	22
2. 主要な事業の成果に対する評価	24
3. 分野別目標に対する事業を通じた達成状況	30
第5章 観光分野の点検・評価	31
1. 対象事業	31
2. 主要な事業の成果に対する評価	33
3. 分野別目標に対する事業を通じた達成状況	39
第6章 国際交流分野の点検・評価	40
1. 対象事業	40
2. 主要な事業の成果に対する評価	41
3. 分野別目標に対する事業を通じた達成状況	44
第7章 横断的施策の点検・評価	45
1. 主要な事業の成果に対する評価	45
第2部 計画全体の点検・評価	47
第1章 計画全体の点検・評価の考え方	48
1. 概要	48
2. 手法	48
第2章 生涯学習分野の点検・評価	50
1. 区民向け調査に基づく点検・評価	50
2. 事業参加者向け調査に基づく点検・評価	51
3. まとめ	51
第3章 スポーツ分野の点検・評価	52
1. 区民向け調査に基づく点検・評価	52

2. 事業参加者向け調査に基づく点検・評価	53
3. まとめ	53
第4章 文化芸術分野の点検・評価	54
1. 区民向け調査に基づく点検・評価	54
2. 事業参加者向け調査に基づく点検・評価	55
3. まとめ	55
第5章 観光分野の点検・評価	56
1. 区民向け調査に基づく点検・評価	56
2. 事業参加者向け調査に基づく点検・評価	57
3. まとめ	57
第6章 国際交流分野の点検・評価	58
1. 区民向け調査に基づく点検・評価	58
2. 事業参加者向け調査に基づく点検・評価	59
3. まとめ	59

文京区アカデミー推進計画は、生涯学習、文化芸術、スポーツ、観光、国際交流という5つの分野に関する施策を推進していくための計画である。

現在の計画は、平成28年度より5年間を計画期間としており、令和2年度に改定を予定している。そのため、今年度は、例年実施している事業の実施状況や課題等の点検・評価に加え、分野別目標の実現度を測る視点から計画全体の点検・評価も行った。それによって、計画改定において重視すべき点を把握し、令和2年度に行う計画改定のための検討・協議の基礎資料とする。

本報告書は、大きく2部構成となっており、第1部「平成30年度事業の点検・評価」は、担当課からの事業の実施結果報告に基づき、文京区アカデミー推進協議会(以下「協議会」という。)において実施した。

第2部「計画全体の点検・評価」は、本年度、計画改定に際して実施した区民実態調査結果に基づきとりまとめた。

以上、協議会、区民、それぞれの立場から、本計画の点検・評価を行った結果が、本報告書である。

第1部 平成30年度事業の点検・評価

第1章 事業の点検・評価の考え方

1. 概要

事業の点検・評価は、平成30年度に実施した事業を対象として、分野別に次の2つの視点から行った。

- ①主要な事業の実施状況の点検及び成果に対する評価
- ②分野別目標に対する事業を通じた達成状況

2. 体制と手法

(1)点検・評価の体制

点検・評価は、学識経験者、関係団体及び区民等で構成する協議会にて実施した。

■令和元年度 文京区アカデミー推進協議会経過

会議名	開催日	主な検討内容
第1回アカデミー推進協議会	令和元年 6月10日	計画改定及び実態調査について
第2回アカデミー推進協議会	令和元年 8月24日	実態調査の調査項目について
第1回分科会(スポーツ)	令和元年11月11日	スポーツ分野の点検・評価について
第1回分科会(生涯学習・文化芸術)	令和元年11月12日	生涯学習分野の点検・評価について
第1回分科会(観光・国際交流)	令和元年11月14日	観光分野の点検・評価について
第2回分科会(生涯学習・文化芸術)	令和元年11月25日	文化芸術分野の点検・評価について
第2回分科会(観光・国際交流)	令和元年11月25日	国際交流分野の点検・評価について
第2回分科会(スポーツ)	令和元年12月 2日	スポーツ分野の点検・評価について
第3回アカデミー推進協議会	令和2年 1月20日	協議会としての点検・評価について

(2)点検・評価手法

協議会に「生涯学習・文化芸術分科会」「スポーツ分科会」「観光・交流分科会」の3つの分科会を設置し、5つの分野について分野別目標ごとに点検・評価を行った。

評価は、まず前年度実施した平成29年度事業の点検・評価結果の振り返りを行い、続いて平成30年度実施した主要な事業(主にアカデミー推進計画事業、基本構想実施計画事業、平成30年度重点施策対象事業など)の取組状況を事務局から報告した。それらを踏まえ、主要な事業の成果に対する評価について議論した。

分野別目標に対する事業を通じた達成状況については、分科会での協議内容を踏まえ、各分科会の座長が総括して点検・評価を行った。

各分科会の委員から出された意見・要望及び座長の意見等について、第3回協議会で報告し、審議を行った後、平成30年度事業の点検・評価とした。

第2章 生涯学習分野の点検・評価

1. 対象事業

(1)生涯学習分野における主要な事業

分野別目標1 いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会の提供・充実		アカデミ ー計画	実施計画 事業	重点 施策
1	文京アカデミア講座	○	○	
2	文京いきいきアカデミア講座	○	○	
3	企業等連携講座(メセナ講演会)	○	○	
4	大学プロデュース特別公開講座(学長講演会)	○	○	
5	資格取得キャリアアップ講座	○		
6	大学連携による各種事業	○	○	
7	大学連携による附属図書館の区民開放	○		
8	視聴覚資料等の貸出	○		
9	「文の京」施設予約ねっとシステム	○		
10	区内大学学長懇談会の実施		○	
11	保育室の設置及び手話通訳者の配置	○		
12	文京e-ラーニング	○		
13	夜間・休日の講座開設	○		
14	生涯学習の相談	○	○	
15	地域資料の充実	○		
16	図書館サービスの充実	○		
17	小石川図書館の改築の検討		○	
分野別目標2 一人ひとりの学びの成果を活かす機会の提供・充実				
18	文京区生涯学習サークル連絡会の支援	○		
19	生涯学習フェア	○		
20	区民プロデュース講座の企画支援	○		
21	人材育成のための講座	○	○	
22	各種講座・展示会の企画への起用	○	○	
23	学習支援者スキルアップ講座	○	○	
24	「文京バックアップーズ」～大学生ボランティアのススメ～		○	
分野別目標3 学びの継続を通じたまちづくり				
25	サークル活動の広報	○		
26	ふれあいサロン	○	○	
27	社会教育関係団体登録制度による活動支援	○		
28	文京お届け講座	○		
29	「文京学」講座	○		
30	区民プロデュース講座	○		

(2)分野別事業数

主要事業及びその他区が実施する各分野別の事業数は、以下のとおり(再掲事業を含む)。

分野別目標	主要事業	その他の事業
【分野別目標1】 いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会の提供・充実	17事業	68事業
【分野別目標2】 一人ひとりが学びの成果を活かす機会の提供・充実	7事業	33事業
【分野別目標3】 学びの継続を通じたまちづくり	6事業	44事業

2. 主要な事業の成果に対する評価

(1)分野別目標1 いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会の提供・充実

前年度の課題と今後の対応・方向(要点)

- ①多様な年齢層・対象に周知するための広報の工夫
- ②障害者や外国人等、学びにハンディのある人への支援
- ③施設予約におけるデジタルデバイドの解消・配慮
- ④効果的な相談の実施と参加促進
- ⑤行政以外の団体が主催する事業の集約・発信

【取組状況の評価】

- 生涯学習の相談については、平成28年度に文の京生涯学習司(区認定有資格者)による相談窓口を開設してから徐々に相談件数が増加しており、活用が広がっている。平成29年度からは、区民プロデュース講座の企画相談も受け付け、初めて応募する方に対する助言などを行い、生涯学習活動への参加促進につながっている。

《関連事業 14、20》

- 文京アカデミア講座では、継続して多種多様な内容の講座を提供しており、定員を超えた申し込みがあるなど区民からの関心も高くなっている。

《関連事業 1、2、3、4、5、6、11、13》

【課題と今後の対応・方向】

①生涯学習相談窓口の周知

相談窓口の開設日時・場所等について、区民に対して適切に周知する必要がある。また、職員への周知も図り、相談希望者を適切に相談窓口案内する体制を整えられたい。

②学習機会の情報集約・周知

区が実施する講座だけでなく、民間等が区内で実施する講座情報も集約し、まとめて区民に情報提供することで、学習機会への参加促進につなげることができる。特に社会人や子育て世代など、事業に参加したことがない人に対する広報として、子どもの集まる児童館等での広報物の配布や庁舎内のデジタルサイネージの活用も検討されたい。

③講座ニーズの把握

平成30年度は、講座受講時に保育室の利用希望者がいなかったことから、子育て世代がどのような時間帯に、どのような講座を求めているのか、ニーズを把握した上で、講座を企画していく必要がある。

④文の京施設予約ねっとシステムの改善

文の京施設予約ねっとシステムについては、システムの使い勝手に関して、以前より課題が認識されている。システム更新時には、より簡単に利用できるように改善を期待する。

【参考事業】

■事業1 文京アカデミア講座

事業概要		
区民の学習を支援するため、地域、文学、歴史・社会、自然科学、芸術、くらし、語学、健康・スポーツなど、バラエティに富んだ講座を提供する。		
事業実施内容	事業実績	
文京アカデミア講座 81講座 外国人おもてなし英会話講座 5講座 魚のおろし方教室 2講座 パソコン講座 5講座10コース 夏休み子どもアカデミア講座 12講座	当初予定数	3,083人
	実績数(※)	3,379人(3,096人)(3,262人)
	申込数	5,785人
成果	課題	
年間を通して、バラエティに富んだ講座を提供しており、講座終了時アンケートにおいて受講生から満足度86%と高く評価された。講座修了生と区内サークル活動団体との連携により、生涯学習の継続のきっかけづくりを行った。アカデミアサポーターの協力により、充実した講座運営が実施できている。	一部にアンケートの満足度が高いにもかかわらず、定員に満たない講座があった。講座内容やPR方法を工夫するなど、引き続き効果的な広報を行っていく必要がある。	
	課題解決に向けた取組	
	講座内容を的確かつ魅力的に表すサブタイトルやキャッチを工夫した。定員に満たないことが予想される講座は、財団広報紙「スクエア」で講師のコメントを紹介し、申し込みを促した。	

実績数(※)欄には、左から、平成30年度3,379人、(平成29年度3,096人)、(平成28年度3,762人)を記載
以下同じ

■事業14 生涯学習の相談

事業概要		
区民がそれぞれのニーズや目的に応じて生涯学習に取り組めるよう、総合的に紹介等を行う。		
事業実施内容	事業実績	
生涯学習司による相談を実施 週3日、1日3時間 生涯学習フェア時に学習相談を実施	当初予定数	—
	実績数	217件(211件)(131件)
	申込数	217件
成果	課題	
学習施設や活動グループの紹介など、生涯学習に関する様々な相談に応ずることができた。	相談窓口の周知・相談に必要な生涯学習に関する情報の収集が課題である。	
	課題解決に向けた取組	
	区の様々な部署が事業周知のために作成するチラシ、リーフレットなどを積極的に収集し、学習相談に活用した。財団広報紙「スクエア」に相談事業のPRを掲載した。	

(2)分野別目標2 一人ひとりの学びの成果を活かす機会の提供・充実

前年度の課題と今後の対応・方向(要点)

- ①文京バックアップーズの活用
- ②ミドル・シニアや若年層等、多様な区民の力を活かすための支援
- ③社会教育関係団体の活動を効果的に機能させる仕組みづくり

【取組状況の評価】

- （公財）文京アカデミーでは、講座の運営支援などを行う文京アカデミアサポーター等を養成し、活動の場を提供している。区民と共に事業を作り上げることで、円滑な講座運営につながっていることについて評価できる。

《関連事業 21、23》

【課題と今後の対応・方向】

①区民プロデュース講座の周知

社会人など、日中に時間を取れない人も含めたより多くの人に企画を提案してもらうためには、申込み要件の見直しも視野に入れる必要がある。また、自ら講座を企画し、実施することと、区民プロデュース講座として講座を実施することの違い(メリット)を、区民に対して明確に伝えていくことも必要である。

②文京バックアップーズの活用

経費に対して実績が伸びていない。Webサイトのメインターゲットである大学生に向けて情報を届けるため、大学生の情報感度に合わせた情報の発信、コンテンツの制作が必要である。

【参考事業】

■事業20 区民プロデュース講座の企画支援

事業概要		
区民プロデュース講座企画者の負担を軽減し、企画を支援するための取り組みを実施する。		
事業実施内容	事業実績	
生涯学習相談窓口で生涯学習司による企画相談を実施 採用された企画について、学習支援者等によるコーディネートを実施	当初予定数	—
	実績数	54件(50件)(—)
	申込数	—
成果	課題	
企画書の様式統一化、生涯学習相談窓口での企画相談等により、区民プロデュース講座の企画支援を充実させた。その結果、区民プロデュース講座を15講座実施することができた。 生涯学習相談の活用や、採用後のコーディネートなど、実施までのプロセスが整備された。	企画内容の重複や、一定のジャンルへの偏りなどがある。多様なジャンルの人材発掘が課題である。	
	課題解決に向けた取組 生涯学習支援者に区民プロデュース講座が提案できる人材を紹介してもらうなど、人材の発掘に努めた。	

■事業24 「文京バックアップーズ」～大学生ボランティアのススメ～

事業概要		
東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて、区内在住・在学の大学生等のボランティア活動への気運醸成を図るため、WEBサイトを開設・運営する。		
事業実施内容	事業実績	
平成30年3月19日にWebサイト開設 バックアップ情報 34件 バックアップーズ紹介 11件 バックアップラボコンテンツ 5件	当初予定数	—
	実績数	50件(—)(—)
	申込数	—
成果	課題	
区内大学生等に向けて、区事業のボランティア情報を発信することができた。また、バックアップーズ紹介やバックアップラボコンテンツで、区内で活躍する大学生を取り上げることで、WEBサイトを広く周知することができた。	ボランティア情報掲載数が伸び悩んでいるため、新たなボランティア情報を探す必要がある。また、学生のサイト閲覧数を伸ばすため、学生の興味を引くようなコンテンツを検討する必要がある。	
	課題解決に向けた取組	
	大学の協力により、学生とまちの課題について話し合う試みを行った。その中でコンテンツの検討材料とするため、学生から直接ボランティア活動に対する意欲や課題について確認した。	

(3)分野別目標3 学びの継続を通じたまちづくり

前年度の課題と今後の対応・方向

- ①地域アカデミーを活用した循環的に発展するための仕組みづくり

【取組状況の評価】

- 文京お届け講座は、行政の仕事や制度について理解を深めてもらう一方、職員が講師を務めることで、職員の知識の活用や、資質向上の機会にもつながる良い取り組みである。

《関連事業 28》

【課題と今後の対応・方向】

①文京お届け講座の広報

文京お届け講座について、ホームページや区報等で、区民に対して広く情報発信するだけでなく、生涯学習団体などの団体に、直接広報を行うことも効果的だと考えられる。

②NPOや市民団体等の活用

NPOや市民団体等が主体となり、地域アカデミーを活用して区民向けの講座を実施した場合、補助金を出すような仕組みを作るなど、区や指定管理者以外の外部資源の活用を検討が必要である。

③庁内の生涯学習情報の集約・発信

他部署での生涯学習的な取り組みは、直接行政課題につながるものも多く、まちづくりにもかかわる内容である。個々に情報発信するのではなく、生涯学習に関する取り組みとして情報を集約し、まとめて提供することが必要である。

【参考事業】

■事業27 社会教育関係団体登録制度による活動支援

事業概要		
区民の自主的な文化・スポーツ・学習活動を促進するため、一定の要件を満たす団体を社会教育関係団体として登録し、施設の優先利用や利用料金の減免などを行うことで、その活動を支援する。		
事業実施内容	事業実績	
登録団体数 1,128団体 (内訳)生涯学習団体 623団体 スポーツ団体 505団体 (平成31年3月31日現在)	当初予定数	—
	実績数	1,128団体(1,103団体)(1,067団体)
	申込数	—
成果	課題	
社会教育活動を推進するため、登録団体名簿の関連施設への配架や、区ホームページへの掲載により団体活動を広く周知した結果、区民の自主的な活動の促進につながった。	団体の登録情報について、変更の届出がない団体が多く見受けられる。また、団体数の増加に伴い、活動内容による分類の見直しを検討する必要がある。	
	課題解決に向けた取組 登録の有効期限を5年以内から3年以内に変更するとともに、登録団体に対し、毎年度実績報告書の提出を求め、社会教育活動に関心のある区民に、新しい情報提供ができるように見直した。	

■事業28 文京お届け講座

事業概要		
区民の自主的な学習活動を支援するとともに、地域の団体の要望に応じて、区の職員が講師として職務に関する話をする事で、職員の意識改革と住民との協働関係の醸成を図る。		
事業実施内容	事業実績	
計20件 参加者計1,192人 【実施した主な講座名】 「がん検診について」、「江戸時代の文京区」、 「文京ふるさと歴史館について」など	当初予定数	—
	実績数	1,192人(1,304人)(1,685人)
	申込数	—
成果	課題	
区民の自主的な学習活動を支援し、区の施策等への理解を促進することができた。	全76講座に対して、実施講座数は20件であり、より幅広く区民に利用してもらうための周知等が必要である。	
	課題解決に向けた取組 周知の方法が、現在区ホームページと区報のみのため、アカデミー施設などで自主的に学習活動を行っている団体へのチラシ配布など、周知方法を検討する。	

3. 分野別目標に対する事業を通じた達成状況

文京区アカデミー推進協議会委員(学識経験者)
生涯学習・文化芸術分科会座長 田中 雅文

①分野別目標1 いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会の提供・充実

多様な内容の学習事業を提供していることは高く評価できる。今後の課題として2点あげることができる。第1に、発展的な内容を学ぶためのステップアップのニーズに応えるため、大学・民間(企業、市民団体等)などの学習事業を有効に活用することである。第2に、障がい者や外国人を含む多様な人々の学習をきめ細かく支援することである。

②分野別目標2 一人ひとりの学びの成果を活かす機会の提供・充実

学びの成果を活かす機会についても、文京アカデミアサポーター、区民プロデュース講座、文京バックアップーズなど多岐にわたる事業を展開しており、充実している。今後は、これらをさらに充実させるとともに新たな方法論の開発にも努め、区民自身が各種の学習事業に企画・運営の立場で参画する機会を拡充していくことが重要である。

③分野別目標3 学びの継続を通じたまちづくり

学びの継続を通じたまちづくりについては、文京お届け講座によって、区民と行政職員との学び合いや協働を促進することが望ましい。一方、区民が学びを通じてコミュニティや地域への関心を高めること、NPOや市民団体が学びながら向上するとともにこれらの団体を活かした学習事業を拡充することにより、「学びと活動の循環」が定着することを望む。

④分野の総評

今後の文京区におけるコミュニティづくり、地域づくりにとって、区民の学習や学び合いは重要である。人生100年時代の生涯学習を活発化するとともに、SDGsやダイバーシティに代表される社会的な課題の解決を促進するため、より一層の効果的な生涯学習の推進を図っていくことが期待される。

第3章 スポーツ分野の点検・評価

1. 対象事業

(1) スポーツ分野における主要な事業

分野別目標1 スポーツを身近に感じる機会の拡充		アカデミ ー計画	実施計画 事業	重点 施策
1	初心者向けスポーツ教室	○		
2	小・中学生向けスポーツ教室	○		
3	親子向けスポーツ教室	○		
4	体育の日事業	○		
5	東京2020大会 カウントダウンプログラム		○	
6	オリンピック・パラリンピックこども新聞		○	
7	文京スポーツセンターリニューアルイベント			○
8	JETプログラムを活用したCIRの導入			○
9	ドイツ料理の日～ホストタウン給食キャラバン～			○
10	BUNKYO2020「文の京めぐり」			○
11	いだてんウォーキング			
12	大河ドラマ「いだてん」トークツアーin東京都文京区			
13	スポーツ・パブリックビューイング	○		
14	読売巨人軍との協定に基づく事業の実施	○	○	
15	文京LBレディース支援事業	○		
16	日本サッカー協会との協定に基づく事業の実施	○	○	
17	地域のスポーツ団体等との連携による事業展開	○	○	
分野別目標2 いつでも、どこでも、だれでも気軽に楽しめるスポーツ活動の促進				
18	地域スポーツ団体の支援・育成	○		
19	個人利用のためのスポーツ施設の開放と指導員によるアドバイス	○		
20	各種区民スポーツ大会等の開催	○		
21	文京区表彰要綱に基づく顕彰事業	○		
22	オリンピック・パラリンピック気運醸成補助金		○	
23	アウトドアスポーツ事業	○		
24	ジュニア・アスリート育成事業	○		
25	シニア向けスポーツ教室	○		
26	着衣泳講習会	○		
27	スポーツ指導者地域派遣		○	
28	スポ・レクひろば	○		
29	障害者のスポーツ施設利用促進事業	○		
30	障害者スポーツ体験教室	○		
31	障害者スポーツ指導員資格取得の支援	○		
分野別目標3 スポーツ活動を支える環境の整備				
32	スポーツセンターの改修	○	○	
33	スポーツ施設の整備と活用促進	○		

34	六義公園運動場管理棟等の改築	○		
35	まるごと子育て応援未就学児童の遊び場開放事業	○		
36	学校施設の活用	○		
37	スポーツ交流ひろばの充実	○	○	
38	スポーツ推進委員会活動への支援	○		
39	スポーツ推進委員・スポーツリーダー等の委嘱	○	○	
40	スポーツ指導者の育成	○	○	
41	スポーツ指導者派遣	○	○	
42	スポーツボランティアの養成	○	○	○
43	スポーツボランティア情報の発信	○		
44	スポーツ交流ひろば通信の発行	○		
45	地域スポーツ情報の提供	○		
46	各種メディアとの連携推進	○		
分野別目標4 スポーツ活動を通じた仲間づくりと交流				
47*	社会教育関係団体登録制度による活動支援	○		
48*	スポーツ交流ひろばの充実	○	○	
49*	スポーツボランティアの養成	○	○	
50	カイザースラウテルン市長杯文京区少年サッカー大会	○		
51*	親子向けスポーツ教室	○		
52	ニュースポーツ教室・大会	○		

*がついている事業は再掲

(2)分野別事業数

主要事業、主要事業を除き区が実施する各分野の事業数は、以下のとおり(再掲事業を含む)。

分野別目標	主要事業	その他の事業
【分野別目標1】 スポーツを身近に感じる機会の拡充	17事業	56事業
【分野別目標2】 いつでも、どこでも、だれでも気軽に楽しめるスポーツ活動の促進	14事業	10事業
【分野別目標3】 スポーツ活動を支える環境の整備	15事業	8事業
【分野別目標4】 スポーツ活動を通じた仲間づくりと交流	6事業	2事業

2. 主要な事業の成果に対する評価

(1)分野別目標1 スポーツを身近に感じる機会の拡充

前年度の課題と今後の対応・方向(要点)

- ①専門的なスポーツ指導を受ける機会の拡充
- ②受験勉強による部活動の制限

【取組状況の評価】

○ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、区民が参加できる体験イベントの実施により、競技に対する理解を図っている。また、文京区のホストタウンであるドイツへの理解を深めるため、多様なテーマでドイツの文化を紹介する講座や学校給食でのドイツ料理の提供により子どもたちへ食を通じた文化体験をする機会を設けるなど、様々な気運醸成のための取り組みが進められている。

《関連事業 5、6、7、8、9、10、11、12》

○ 読売巨人軍や日本サッカー協会をはじめとする区内に拠点を置くプロスポーツ団体や、関連企業、大学等との協働事業を進めることで、子どもの頃からレベルの高い指導の体験機会を設けるなど、子どもたちがスポーツに親しむ環境を積極的に創出している。

《関連事業 2、3、14、16、17》

【課題と今後の対応・方向】

①事業参加後の継続的なスポーツ活動の支援

「初心者向けスポーツ教室」について、参加者が教室終了後も競技を継続できる仕組みが必要である。各スポーツの関連団体と連携しながら、モチベーションを保つための取り組みについて検討する必要がある。

②地域のスポーツ団体等との連携による事業展開

親子で参加できる初心者向け教室が中心だが、継続してスポーツを行いたい参加者へのフォローアップ教室等があるとよい。親子向けということで、区報掲載及び学校等へのチラシ配布が主な広報であるが、幅広い年代に周知する異なる手法がないか、検討する必要がある。

【参考事業】

■事業1 初心者向けスポーツ教室

事業概要		
区民が気軽にスポーツを体験できる各種初心者向けスポーツ教室を開催する。		
事業実施内容	事業実績	
アーチェリー:6月及び7月、全6回実施(総合体育館) 合気道:10月及び11月、全6回実施(総合体育館) 弓道:9月、全6回実施(スポーツセンター)	当初予定数	85人
	実績数	69人(38人)(63人)
	申込数	116人
成果	課題	
個人では簡単に始めることができないスポーツについて、初心者でも気軽に体験できる機会を作ることができた。 アーチェリー:定員25人、応募30人、参加人数20人 合気道:定員30人、応募19人、参加人数19人 弓道:定員30人、応募67人、参加人数30人	初心者スポーツ教室を受講したのみで終わってしまう利用者もあり、引き続きスポーツを継続していけるような環境の整備が必要である。	
	課題解決に向けた取組	
	初心者スポーツ教室を実施している団体等と、教室後のスポーツの継続方法等について協議する。	

■事業17 地域のスポーツ団体等との連携による事業展開

事業概要		
区内に拠点を置くプロスポーツ団体・企業・大学等との協働により、各種スポーツの体験教室及びスポーツ観戦事業を実施する。		
事業実施内容	事業実績	
プロスポーツ団体等と、親子スポーツ体験教室や公式戦の応援観戦、パブリックビューイング等37事業を実施した。 (株)読売巨人軍・トヨタ自動車(株)・アルバルク東京・文化シヤッター(株)・ヨネックス(株)・(公社)日本サッカー協会・(公社)日本バスケットボール協会・CLUB LB&BRB・順天堂大学・東京大学ほか	当初予定数	—
	実績数	37事業(23事業)(8事業)
	申込数	主な申込数 ・ジャイアンツアカデミー「小学生投げ方走り方教室」定員160組・応募389組 ・アルバルク東京「応援観戦ツアー」定員20組・応募32組
成果	課題	
協働する団体が多様化し、様々な競技種目のスポーツイベントが実現できた。スポーツを「する」だけでなく、「観る」「支える」といった側面からも区民がスポーツに関わる機会が増加した。	事業を継続的に実施するため、協働する団体との連携強化が必要である。併せて、新しい競技種目での事業実施のために、協働する団体等との事業調整を検討しなければならない。	
	課題解決に向けた取組	
	年度当初や施設年間予約時に、事業計画を共有するとともに、新たな事業の可能性について、通年での連絡調整を行う。	

(2)分野別目標2 いつでも、どこでも、だれでも気軽に楽しめるスポーツ活動の促進

前年度の課題と今後の対応・方向(要点)

①スポーツを始めたい人に対する広報活動

【取組状況の評価】

○ アウトドアスポーツ事業やシニア向けスポーツ教室などは、メニューの充実や広報を工夫することで申込者数も多くなり、幅広い年齢層の区民が気軽に楽しめるスポーツ活動としての役割を果たしている。

場所を選ばず、誰でも親しめるボッチャは、障害者スポーツを楽しみながら理解してもらい取り組みとして継続されている。スポーツ推進委員に対する指導依頼も多い競技であり、東京2020大会開催後も障害者スポーツの振興に取り組またい。

《関連事業 19、23、25》

【課題と今後の対応・方向】

①地域スポーツ団体からの依頼種目の拡充

「地域スポーツ団体の支援・育成」について、スポーツ推進委員やスポーツリーダーに派遣依頼のある競技種目に偏りがあるため、指導可能な競技種目について地域団体に周知する必要がある。

②障害者スポーツ体験教室の実施

障害者スポーツ教室については、応募者が定員を充足しない場合があるので、周知先を再考し、障害者スポーツに関心がある層に確実に情報を届ける必要がある。また、日本財団パラリンピックサポートセンター解散後においても障害者スポーツ教室を維持するため、各競技団体との連携を保持する方策を検討しなければならない。

【参考事業】

■事業27 スポーツ指導者地域派遣

事業概要		
区民の自主的なスポーツ・レクリエーション活動を促進し、スポーツ・レクリエーション活動を行う団体を育成する。		
事業実施内容	事業実績	
派遣件数:124単位 ・スポーツ推進委員:72単位 ・スポーツリーダー52単位 ※派遣回数:1団体につき年間4単位(1単位2-3時間程度)	当初予定数	—
	実績数	124単位(126単位)(124単位)
	申込数	124単位
成果	課題	
昨年度に比べわずかに派遣単位数は減少したが、新規団体からの申請が増加した。	特定の競技種目に、指導依頼が集中する傾向がある。	
	課題解決に向けた取組	
	指導可能な競技種目を周知する。	

■事業30 障害者スポーツ体験教室

事業概要		
障害の有無に関わらず、スポーツを楽しむ機会を確保するため、様々な障害者スポーツを「する」「観る」事業を実施する。		
事業実施内容	事業実績	
日本財団パラリンピックサポートセンターを通じて、障害者スポーツ団体との協働が実現したため、車いすバスケットボール及びボッチャの体験事業を実施した。また、日本ブラインドサッカー協会との協働により、東日本リーグ及びユニバーサルスポーツ体験会、国際試合の観戦ツアーを実施した。	当初予定数	—
	実績数	5事業(4事業)(3事業)
	申込数	—
成果	課題	
体験会では、障害者・健常者混合での競技体験が実現できた。また、東京2020大会の正式種目である5人制サッカー(ブラインドサッカー)の国際試合を観戦することにより、パラリンピックへの気運醸成が図れた。	参加者が定員を充足しない事業があるため、広報について、さらに工夫する必要がある。	
	課題解決に向けた取組	
	区報掲載、学校等へのチラシ配布以外に協働する団体のSNS等での周知を行う。	

(3)分野別目標3 スポーツ活動を支える環境の整備

前年度の課題と今後の対応・方向(要点)
①区内大学施設の活用による事業の拡大

【取組状況の評価】

○ スポーツセンターの改修が完了し、バリアフリー化された施設で誰もがスポーツを楽しめる環境が整備された。屋外スポーツ施設や学校施設は、引き続き区民の身近なスポーツ活動の場として活用されている。

《関連事業 32、33、36》

○ スポーツボランティアの養成、情報の発信により、他の自治体等との連携による活動の場の拡大や、東京2020大会の大会ボランティア・都市ボランティアの推薦につながったことは評価できる。

《関連事業 42、43》

【課題と今後の対応・方向】

①スポーツ活動を支える人材の育成・確保

スポーツ推進委員については、今後も積極的な活動を継続する必要があることから、意欲があり、継続的に活動できる人の確保に努められたい。また、スポーツリーダーは、地域でのスポーツ活動を支える重要な役割を担っている。現在活動している人の意向をくみ上げ、育成を進めてほしい。

【参考事業】

■事業32 スポーツセンターの改修

事業概要		
老朽化したスポーツセンターを改修し、バリアフリー化を含め、誰もが安全で快適にスポーツを楽しむことができる環境を整備する。		
事業実施内容	事業実績	
改修期間：平成29年2月から平成30年6月まで 改修内容：全館空調(冷暖房)設備の整備、全館のバリアフリー化とユニバーサルデザインの導入、エレベーター更新による大型化等 平成30年7月1日にリニューアルオープンし、通常営業を再開した。	当初予定数	—
	実績数	483,344人 (H30.7～R1.6の1年間)
	申込数	—
成果	課題	
利用者人数 平成26年度：439,954人 平成27年度：442,707人 平成28年度から平成29年度は改修中 平成30年度：483,344人※ ※(H30.7～R1.6の1年間) 改修前の平成27年度と比較し、利用者が増加した。	屋内施設については、スポーツセンターの全面改修や総合体育館の新築によって、快適な環境を整備できたが、屋外施設については、管理棟やグラウンド面等の老朽化が進んでいる。	
	課題解決に向けた取組 六義公園運動場の管理棟については改修工事を実施しており、令和2年度秋頃に完成予定である。小石川運動場については、平成30年度に人工芝の部分改修を行った。	

■事業39 スポーツ推進委員・スポーツリーダー等の委嘱

事業概要		
スポーツ推進委員やスポーツリーダー等を委嘱する。		
成果	課題	
委嘱人数 ・スポーツ推進委員 32名(定員33) ・スポーツリーダー 39名	当初予定数	71人
	実績数	71人(74人)(74人)
	申込数	71人
成果	課題	
スポーツ推進委員やスポーツリーダーの改選にあたり、経験豊富な委員が引き続き委嘱され、新任の委員も一定数加入することとなった。新体制においても、地域スポーツ振興に一体となって尽力している。	平成30年度からスポーツ推進委員が定員割れの状態になっており、推薦の依頼先となる団体等に、積極的に推薦者を出すよう働きかける必要がある。	
	課題解決に向けた取組 新たな推薦母体の開拓や、スポーツ団体以外に所属していて、スポーツ振興に興味がある区民にも就任の機会を確保していく。	

(4)分野別目標4 スポーツを通じた仲間づくりと交流

前年度の課題と今後の対応・方向(要点)

- ①大学との連携によるスポーツ事業の発展

【取組状況の評価】

- スポーツボランティアの養成、情報の発信により、他の自治体等との連携による活動の場の拡大や、東京2020大会の大会ボランティア・都市ボランティアの推薦につながったことは評価できる。

《関連事業 49》

- ドッジビーやポッチャ等の教室・大会では、多くの参加者を集めており、ニュースポーツの普及が進んでいると評価できる。

小中学校の施設を利用したスポーツ交流ひろばなど、地域の身近な場所で気軽にスポーツを楽しめる環境づくりを行っている。また、大学との連携により、区民同士の交流の機会の創出ができる環境づくりを進めている。

《関連事業 52》

【課題と今後の対応・方向】

①スポーツボランティアの活動場所の拡充

「支える」スポーツの担い手としてのスポーツボランティアを、区が主催する事業だけでなく、区内大学・団体や、区外で実施される各種のスポーツイベントに派遣することにより、東京2020大会の気運醸成を図り、さらに大会後の活動につなげていく必要がある。

【参考事業】

■事業49 スポーツボランティアの養成

事業概要		
「支えるスポーツ」の担い手として、スポーツボランティアを登録、養成、派遣する。		
事業実施内容	事業実績	
スポーツボランティア登録者数:122人 平成30年度スポーツボランティア派遣人数:472人 スポーツボランティア養成講座全6回 受講者延べ79人	当初予定数	—
	実績数	ボランティア従事者数 延べ472人(300人)(235人)
	申込数	—
成果	課題	
スポーツ事業・オリンピック・パラリンピック気運醸成事業を中心に、ボランティアの従事を依頼した。また、区外の自治体・ボランティア団体との連携により、区内で実施していない競技スポーツ事業への派遣数が増加した。 併せて大会ボランティア・都市ボランティアの情報を提供するだけでなく、区からの推薦も行った。	東京2020大会の気運醸成のため、より多くの事業に従事してもらう必要がある。	
	課題解決に向けた取組	
	大会後のレガシーとして、ボランティアマインドを継続するため、活動機会の拡充を図った。	

■事業52 ニュースポーツ教室・大会

事業概要		
障害の有無や年齢に関わらず一緒に楽しむことができるニュースポーツを普及するため、ドッジビーやボッチャ等の教室や大会を実施する。		
事業実施内容	事業実績	
ニュースポーツ教室(通年・申請に応じてドッジビー・ボッチャ等の出前教室) 実施回数15回、参加人数延662名 みんなで楽しくドッジビー大会 平成31年3月10日(日)34チーム315名	当初予定数	—
	実績数	977人(1,080人)(868人)
	申込数	—
成果	課題	
申請に基づき、スポーツ推進委員がニュースポーツ教室を実施・運営した。ボッチャについては、スポーツ推進委員考案のゲームを紹介するなど、新たな試みにも着手している。 ニュースポーツ大会として、ドッジビー大会を開催した。	ニュースポーツ大会の競技種目について、変更を検討する必要がある。また、大人数の参加者の安全確保等について、事前に十分な検証を行う必要がある。	
	課題解決に向けた取組	
	スポーツ推進委員会において、競技種目の変更の可能性について検討する。	

3. 分野別目標に対する事業を通じた達成状況

文京区アカデミー推進協議会委員(学識経験者)
スポーツ分科会座長 青木 和浩

①分野別目標1 スポーツを身近に感じる機会の充実

スポーツ団体との協働事業など、特に親子向けの事業が数多く実施され、良好に取り組んでいると評価できる。課題として、事業数が多いがあまり周知されていない点も見られ、情報発信の方法が不十分である。また、初めて参加した方々が、継続できる仕組みづくりの検討も望まれる。

②分野別目標2 いつでも、どこでも、だれでも気軽に楽しめるスポーツ活動の促進

様々な年代や幅広いスポーツを対象にスポーツ活動促進の機会を多く提供し、良好に取り組んでいると評価できる。課題として、実施種目や参加者数に偏りが見られる点である。また、障害者スポーツについては、指導員の確保も含め検討が必要と思われる。

③分野別目標3 スポーツ活動を支える環境の整備

区内のスポーツ施設の環境整備も進み、学校開放など、環境面の整備は進んでいると評価できる。また、施設の稼働率も高く、良好である。課題としては、スポーツ推進委員やボランティアなどのスポーツ活動を支える人材の確保や育成方法の検討が望まれる。

④分野別目標4 スポーツを通じた仲間づくりと交流

スポーツに関わる様々な事業において、参加者数が多くなっている点は、評価できる。また、ニュースポーツの普及も良好である。課題として、「交流」という観点からの実施計画が不十分である印象があるので、その点を踏まえた実行が望まれる。

⑤分野の総評

区内において、非常に多くのスポーツイベントを実施しており、幅広い年代や種目を展開している点は高く評価できる。しかしながら、参加者数や参加の継続など、事業によっては成功しているものと不十分なものもみられ、事業内容の精査が望まれる。また、情報発信の方法やスポーツを支える人材の育成なども課題として上げられる。これらの点を改善し、より効果的で充実した事業となっていくことを期待する。

第4章 文化芸術分野の点検・評価

1. 対象事業

(1)文化芸術分野における主要な事業

分野別目標1 だれもが文化芸術に親しむことができる環境づくり		アカデミ ー計画	実施計画 事業	重点 施策
1	文化・芸術に親しむ発表会、大会等の実施	○	○	
2	I don't know(能)…NO(能)problem!～みんなで親しむ「能(Noh)プロジェクト」～		○	
3	事業提携楽団によるコンサート	○	○	
4	小・中学生のための出前コンサート	○	○	
5	文の京コミュニティコンサート	○	○	
6	小・中学生のための歴史教室	○		
7	文京ミューズフェスタ	○		
8	子ども俳句大会	○		
9	親子向けコンサート	○	○	
10	紙媒体による情報提供	○	○	
分野別目標2 文化芸術を鑑賞・創造する活動の支援				
11	「アートウォール・シビック」への作品展示	○		
12	観客参加型公演	○	○	
13	朗読コンテスト	○		
14	かるたの街文京を発信!		○	
15	まるキャンマーケット～夏の陣、冬の陣～			○
16	吹奏楽アンサンブルコンテスト	○	○	
17	楽器演奏指導	○	○	
18	舞台芸術創造事業(大ホール)	○	○	
19	舞台芸術創造事業(小ホール)	○	○	
20	シビックコンサート	○	○	
21	カレッジコンサート	○	○	
分野別目標3 「文の京」の文化を守り、伝え、活用する仕組みづくり				
22	史跡めぐり	○		
23	文の京ゆかりの文化人顕彰事業	○	○	
24	文の京ワークショップ	○		
25	新・観潮楼歌会	○		
26	「文の京文化発信プロジェクト」	○	○	
27	文京ふるさと歴史館友の会の支援	○		
28	文京ふるさと歴史館常設展示解説ボランティア	○		
29	森鷗外記念館解説ボランティア	○		
30	技能名匠認定事業	○		
31	「来て見て体験」文京の伝統工芸		○	
32	文京ふるさと歴史館特別展	○		
33	文京ふるさと歴史館収蔵品展	○		
34	森鷗外記念館特別展・コレクション企画	○		

35	映像資料調査・保存事業	○		
36	指定文化財等の保護・保存と管理	○	○	
37	「文の京」歴史再発見～江戸から明治～			○
38	文の京ミュージアムネットワーク	○		
39	コンピューターによる館内閲覧システム	○		
40	文京ふるさと歴史館だより・年報の発行	○		
41	森鷗外記念館ニュース・年報の発行	○		

(2)分野別事業数

主要事業、主要事業を除き区が実施する各分野の事業数は、以下のとおり(再掲事業を含む)。

分野別目標	主要事業	その他の事業
【分野別目標1】 だれもが文化芸術に親しむことができる環境づくり	10事業	5事業
【分野別目標2】 文化芸術を鑑賞・創造する活動の支援	11事業	0事業
【分野別目標3】 「文の京」の文化を守り、伝え、活用する仕組みづくり	20事業	9事業

2. 主要な事業の成果に対する評価

(1) 分野別目標1 だれもが文化芸術に親しむことができる仕組みづくり

前年度の課題と今後の対応・方向(要点)

- ①子どもが参加できる事業の時間配分や体験内容の改善

【取組状況の評価】

- 区内にある宝生能楽堂と連携して、日本の伝統文化である能を親子で体験できる機会をつくり、毎年リピーターも増えてきている。子どもを主体とした次の世代への取り組みに力を入れて成果を出しており、評価できる。

《関連事業 2》

- シビックホールでの区と(公財)文京アカデミーが事業提携している楽団等の公演は、年々人気を博してきている。

提携楽団の協力による親子が一緒に楽しめるコンサート等の開催や、区民参加型公演に舞台手話通訳が出演する取り組みについて評価できる。

《関連事業 3、9、12、19》

【課題と今後の対応・方向】

①能への理解を深める機会の創出

能プロジェクトは参加者が多く、限られた時間内で数種類の能の体験をしてもらうプログラムになっているため、流れ作業のように参加者を移動させてしまうことがある。能に対する一時的な関心の喚起も重要だが、関心を継続し、深掘りしていく機会を作っていくことも今後は重要である。

②事業提携団体の認知度の向上

区及び文京アカデミーと事業提携している団体について、区民の認知度が向上することで、地域とのつながりが生まれ、事業への参加も促進されると考えられるため、周知に努められたい。

【参考事業】

■事業2 I don't know(能)…NO(能)problem!～みんなで親しむ「能(Noh)プロジェクト」～

事業概要		
子どもたちに区内の貴重な文化資源である能に興味を持ってもらえるよう、公益社団法人宝生会と連携し、「鑑賞」と「体験」を交えた能に係るプログラムを実施する。		
事業実施内容	事業実績	
実施日:8月12日(日) 場所:宝生能楽堂 内容:能「土蜘蛛」の鑑賞と、能楽堂バックステージツアー、面や装束、楽器の体験やARメガネ体験等の体験を行った。	当初予定数	400人
	実績数	235人(340人)(-)
	申込数	318人
成果	課題	
難しいイメージのある能を、体験を踏まえた子ども向けの事業として実施することで、伝統文化を若い世代に発信することができ、参加者の96%が面白かったと回答した。	昨年度と同じ内容で開催したためか、申込者数が定員に達しなかった。	
	課題解決に向けた取組	
	演目や体験内容を変更するなど、リピーターも楽しむことができる内容とする。	

■事業3 事業提携乐团によるコンサート

事業概要		
区及び文京アカデミーと事業提携を結ぶ、東京フィルハーモニー交響乐团及びシエナ・ウインド・オーケストラの協力によりコンサートを開催する。		
事業実施内容	事業実績	
響きの森クラシック・シリーズ Vol.64 5月26日(土)実施 1,680名 Vol.65 9月8日(土)実施 1,622名 Vol.66 1月12日(土)実施 1,644名 フレッシュ名曲コンサート ランチタイムコンサート 6月28日(木)実施 316名 シエナ・ウインド・オーケストラによるコンサート 11月23日(金・祝)実施 1,087名	当初予定数	6,739人
	実績数	6,349人(6,588人)(6,686人)
	申込数	-
成果	課題	
響きの森クラシック・シリーズ及びシエナ・ウインド・オーケストラは、共に固定したファンが増えている。	さらなる顧客の獲得と定着を図るとともに、ファンのすそ野を拡大することが必要である。	
	課題解決に向けた取組	
	曲目解説や出演者インタビュー記事の掲載、試聴コーナーの開設など、シビックホールのホームページを工夫し、新たなファンの獲得に努めた。	

(2)分野別目標2 文化芸術を鑑賞・創造する活動の支援

前年度の課題と今後の対応・方向(要点)

- ①稼働率が高い施設の一般利用への対応
- ②若年層を鑑賞事業に参加を促すきっかけや若手芸術家の発表の場づくり

【取組状況の評価】

- 競技かるた発祥の地が文京区であること、(一社)全日本かるた協会の本部が区内にあること、区内で全国的な競技かるたの大会が開催されていることなど、かるたとの縁を活かした事業を展開しており、参加者からの満足度も高いことは評価できる。

《関連事業 14》

- シビックホールでは、区民参加型公演に舞台手話通訳を取り入れるなど、先進的な取り組みも行っている。

《関連事業 19》

【課題と今後の対応・方向】

①アートウォール・シビックの利用促進

アートウォール・シビックにおいて、例年展示を行っていた団体が、メンバーの高齢化等の様々な要因から作品制作が困難になり、応募ができなくなることもある。展示スペースの物理的な制約もある中で、新たな出展団体の開拓を行うなど、取り組みの工夫が求められる。

②身近な場所で音楽に親しむ機会の拡充

毎月開催しているシビックコンサートは、シビックセンターでランチタイムに誰でも気軽に音楽を楽しめる機会を創出しているが、日中に足を運ぶことのできる観客にその機会が限られている。仕事や学校帰りの人も立ち寄れる夕方などの時間帯に開催し、より多くの人が音楽に親しめるように機会の拡充を検討されたい。

【参考事業】

■事業11 「アートウォール・シビック」への作品展示

事業概要		
若手芸術家の育成を図るため、シビックセンターの壁面を利用して平面美術作品の展示を行う。		
事業実施内容	事業実績	
区史写真パネル展、かるたパネル展、ミューズネットパネル展、第16回美it展、筑波大学附属学校児童・生徒作品展、本郷美術学院作品展～未来アーティスト展～、悠友会第10回作品展「言葉のかわりに・・・」、 「三匹獅子舞と東京に残る戦災樹木」展、 「自由が好き、発想が喜び。」展を実施	当初予定数	—
	実績数	86人(98人)(69人)
	申込数	86人
成果	課題	
区民に発表の場を与えると共に、年間通じて美術作品等を展示することで、来庁者が気軽に芸術と触れ合う機会を提供することが出来た。	出品者の減少、固定化が見られる。	
	課題解決に向けた取組	
	ちらし・ホームページ等の通常の募集広報に加え、区内の芸術等に係る関係者に直接連絡を取り、事業概要の説明を行う。	

■事業14 かるたの街文京を発信！

事業概要		
文京区にゆかりある小倉百人一首かるたの魅力を発信するため、講演会や体験イベント、かるた教室等を実施する。		
事業実施内容	事業実績	
・文京区×ちはやふる複製原画展 実施日：3月16日～21日 場所：展示室Ⅰ 内容：「ちはやふる」複製原画等の展示、競技かるたデモンストレーションや体験会、袴の着付け体験を実施 ・小中学校かるた教室 茗台中学校、第九中学校、第六中学校で実施	当初予定数	—
	実績数	3,152人(1,087人)(—)
	申込数	—
成果	課題	
「ちはやふる」に登場する文京区のスポットや、区関連の百人一首資料等を展示した。来場者の63%が区外の方で、その89%の方に満足していただき、「かるたの街文京」を多くの方々に周知することができた。 また、区内中学校にかるた関連団体を派遣することで、生徒たちが本格的な競技かるたに触れる機会を提供することができた。	外国人や視覚障害者にも競技かるたが広がりつつあり、より幅広い人々に向けた事業が今後必要である。	
	課題解決に向けた取組	
	区内に本部を構える全日本かるた協会と連携を図り、本区の文化的な資源である「かるた」を一層内外に発信していく。	

(3)分野別目標3 「文の京」の文化を守り、伝え、活用する仕組みづくり

前年度の課題と今後の対応・方向(要点)

- ①文化イメージ、伝統観にしばられない新たな視点からの事業企画
- ②文京ミュージアムマップなどを活用した事業や割引制度などを取り入れた新たな仕組みづくり

【取組状況の評価】

- 史跡めぐりや文の京ゆかりの文化人顕彰事業など、様々な事業が実施されており、充実している。特に「文の京」歴史再発見では、殿様サミットに定員の5倍を超える非常に多くの申込みがあり、区民の関心度の高いイベントを実施している。

《関連事業 37》

【課題と今後の対応・方向】

①文京ふるさと歴史館の展示・広報の充実

文京ふるさと歴史館の特別展は、毎回とても質の高いものになっているが、展示作品の数や展示方法などを工夫し、だれでも楽しめるように取り組んでほしい。また、関係者向けに作成している年報は、一般の方が読んでも興味深い内容であるため、より多くの方に施設を知ってもらうツールとして必要である。

②観光分野との連携

博物館を文化資源としてだけでなく観光資源として活用する流れもあり、観光分野と連携した事業の企画などが今後求められる。

【参考事業】

■事業32 文京ふるさと歴史館特別展

事業概要		
文京区の歴史や文化に関することをテーマに設定し、資料収集、調査研究した成果を多角的に掘り下げた特別展を開催する。		
事業実施内容	事業実績	
文京区の歴史や文化に関することをテーマに設定し、資料収集、調査研究した成果を多角的に掘り下げた特別展示を開催する。	当初予定数	—
	実績数	3,837人(2,859人)(2,744人)
	申込数	—
成果	課題	
文京区史をはじめ、過去の刊行物・書籍等では取り上げられる機会の無かった歴史や文化を再発見し、周知することができた。	開館から四半世紀を経過し、来館者数が頭打ちの傾向にあり、新規来館者を増やすことが必要である。	
	課題解決に向けた取組 写真展など、親しみやすい展示のテーマ設定により、幅広い年齢層の来館者があった。今後も来館者アンケートなどを参考にしながら、区民が興味・関心を持てる展示を行う。	

■事業40 文京ふるさと歴史館だより・年報の発行

事業概要		
文京の歴史・文化に関する情報や、歴史館の事業、調査研究成果等について周知する。		
事業実施内容	事業実績	
文京の歴史・文化に関する情報や、歴史館の事業、調査研究成果等について周知した。 30年度実施の特別展・収蔵品展等の各種事業、資料収集、調査研究の成果等を掲載した。 また、年報の巻末には館蔵資料である高崎屋(渡辺家)資料目録を掲載した。	当初予定数	6,500部(たより6,000,年報500)
	実績数	6,500部(6,500部)(6,500部)
	申込数	—
成果	課題	
歴史館だよりは、区民・来館者に広く配布し、年報は関係機関・関係者等に配布することで、当館の事業や、調査研究の成果を周知することができた。	歴史館だよりは、2色刷りのため、資料の内容等が伝わりづらい部分がある。年報は年によって、残部が出ることもあり、その活用方法を検討する必要がある。	
	課題解決に向けた取組	
	歴史館だよりは、カラー化も選択肢として検討するなど、よりわかりやすい紙面作りを行う。年報は、残部を希望する区民に配布するなど、一般向けの周知・広報にも活用していく。	

3. 分野別目標に対する事業を通じた達成状況

文京区アカデミー推進協議会委員(学識経験者)
生涯学習・文化芸術分科会座長 田中 雅文

①分野別目標1 だれもが文化芸術に親しむことができる環境づくり

次代を担う子どもたちに対して、さまざまな文化芸術に親しむ機会を提供していることは評価できる。今後は、障がい者や外国人など、地域での文化芸術の鑑賞に対して参加しにくい層への提供も工夫する必要があると思われる。分野、国・地域、伝統・現代などの違いによる多様な内容のうち、どこに焦点をあてるかについても十分に検討すべきである。

②分野別目標2 文化芸術を鑑賞・創造する活動の支援

ただし、文化芸術については行政から鑑賞の機会を提供するのみならず、区民自身の主体的な活動として鑑賞の輪が広がることが重要であり、一方で文化芸術を創造していく活動も大いに期待されるところである。そのための施設や機会を提供するとともに、資金や広報の面で支援することが求められる。

③分野別目標3 「文の京」の文化を守り、伝え、活用する仕組みづくり

文化芸術の中でも「文の京」の文化を守り、伝え、活用するための仕組みの構築は、文京区らしい取り組みといえる。文京区独自の文化を子どもから大人まで、そしてさまざまな立場の区民が学び、伝統の継承とともに新たな地域文化の創造にまでつなげていくことが期待される。その際、異文化交流も組み込まれることにより、新しい可能性が広がるだろう。

④分野の総評

以上のように、文化芸術に親しむ層の拡大と自ら文化芸術を鑑賞したり創造したりする区民の活動を支援し、文京区らしい文化芸術の活動が広がっていくことが求められる。それは、生涯学習や観光・国際交流など他の分野との相互乗り入れによって、分野横断的な成果にもつながっていくものと思われる。

第5章 観光分野の点検・評価

1. 対象事業

(1) 観光分野における主要な事業

分野別目標1 観光資源の発掘・保護を通じた文京区の魅力・個性の創出		アカデミ ー計画	実施計画 事業	重点 施策
1	観光写真コンクール	○		
2	肥後細川庭園周辺地域の魅力創出事業	○		
3	展望ラウンジ観光拠点化事業	○		○
4	まち並みウォッチング	○		
5	文の京都市景観賞	○		
6	大河ドラマ「いだてん」主人公金栗四三青春の地・文京区スタンプラリー			
7	大河ドラマ「いだてん」主人公金栗四三青春の地・文京区企画展			
8	観光リーフレット作成	○	○	
9	コミュニティバス「Bーぐる」運行事業	○		
10	自転車シェアリング事業	○	○	
11	無料公衆無線LANの整備	○	○	
12	観光インフォメーション	○	○	
13	観光PRポスター作成	○		
14	文京区デジタルジャーニー～展望ラウンジからつながる観光情報発信～		○	
15	インバウンド歓迎戦略2018～外国人まるごとおもてなしプラン～			○
分野別目標2 情報の収集・活用による来訪の促進				
16	観光ボランティアガイド事業	○	○	
17	歴史的建造物の活用	○		
18	文の京ゆかりの文人支援事業	○		
19	文の京ゆかりの文人銘菓	○		
20	フィルムコミッション事業	○		
21	花の五大まつり等助成	○	○	
22	国内交流事業	○	○	
分野別目標3 持続可能なまちづくりを支える仕組みづくり				
23	観光協会振興助成	○		
24	広域連携事業	○	○	
25	バリアフリーの推進	○		
26	区内統一案内標識整備	○		
27	外国人おもてなし隊育成事業	○	○	

(2)分野別事業数

主要事業、主要事業を除き区が実施する各分野の事業数は、以下のとおり(再掲事業を含む)。

分野別目標	主要事業	その他の事業
【分野別目標1】 観光資源の発掘・保護を通じた文京区の魅力・個性の創出	15事業	1事業
【分野別目標2】 情報の収集・活用による来訪の促進	7事業	6事業
【分野別目標3】 持続可能なまちづくりを支える仕組みづくり	5事業	4事業

2. 主要な事業の成果に対する評価

(1) 分野別目標1 観光資源の発掘・保護を通じた文京区の魅力・個性の創出

前年度の課題と今後の対応・方向(要点)

- ① 区の特徴を活かした体験型ツアーの企画や実施
- ② Sky View Lounge BARの定期的な開催
- ③ 日本文化にゆかりの深い場所を巡る文化体験イベント等の開催
- ④ 重複する事業や効果が低い事業の見直し・整理

【取組状況の評価】

- 展望ラウンジ観光拠点化事業「Sky View Lounge BAR」は、開催日数を29年度の2日から、30年度は4日に増やしたほか、「文京博覧会」と同日開催にするなどの試みにより、多くの方が来場した。

《関連事業 3》

- 観光写真コンクールは、応募者のみならず、写真展来場者に対し、区の魅力を発信する場となっており、評価できる。

《関連事業 1》

【課題と今後の対応・方向】

① 観光写真コンクールの改善

165万人が来場する花の五大まつり等において、多くの方が写真を撮っているはずだが、応募点数は461点であり、写真コンクールへの応募に至っていないケースが多いと考えられる。スマートフォンで撮った写真を気軽に応募できるようにするなど、応募点数が増加する工夫を期待する。また、外国人にとって魅力的な写真の掲載や外国人部門を設けるなど、外国人の視点を積極的に取り入れることも検討されたい。

② 新しい視点を取り入れた観光リーフレットの作成

観光ガイドマップを刷新し、配布部数は、18,000部以上増加した。今後は、観光スポット等の知見を深めるという切り口だけでなく、スポーツや健康等の要素も取り入れ、観光とスポーツをリンクさせた内容も盛り込んだガイドマップの作成について検討されたい。

【参考事業】

■事業1 観光写真コンクール

事業概要		
区内の名所・旧跡等の歴史文化遺産や文京花の五大まつりの風物詩等、現代のまちの表情を広く紹介する観光写真コンクールを実施する。		
事業実施内容	事業実績	
第57回観光写真コンクールの開催 ・応募者145人、応募点数461点 ・入賞作品40点 ・観光写真展 会期 11月9日～11日 入場者数 537人(3日間)	当初予定数	—
	実績数	461点(395点)(402点)
	申込数	461点
成果	課題	
応募点数が29年度395点から30年度461点と大幅に増加し、写真展来場者を含めた区民等に観光資源を広く周知することができた。また、入賞作品を観光PRポスター等へ活用することで、区の魅力発信につながった。	区の魅力を多くの方に知っていただくため、本事業により参加しやすい仕組みを構築する必要がある。	
	課題解決に向けた取組	
	テーマ部門の廃止等、応募要件を緩和した。また、ジュニア部門の応募者数を増やすため、区立小中学校に対し、積極的な周知を行った。	

■事業3 展望ラウンジ観光拠点化事業

事業概要		
シビックセンター25階の展望ラウンジにおいて、観光スポットとしてのプレゼンスを向上することを目的とした事業「Sky View Lounge BAR」を実施する。		
事業実施内容	事業実績	
ビール等のお酒やおつまみ、観光土産品等の販売を行った。また、経済課主催による「文京博覧会(ぶんぱく)2018」と同日開催し、国内交流都市のワインや日本酒等を販売した。 (1) 実施期間:8月24日(金)・25日(土)及び11月16日(金)・17日(土) (2) 来場者数:約4,100人	当初予定数	—
	実績数	4日間(2日間)(3日間)
	申込数	—
成果	課題	
開催日数を29年度から2日増やすとともに、他のイベントと同日開催したことにより、展望ラウンジの魅力を多方面に発信することができた。また、国内交流都市の酒類等を販売することで、当該都市のPRにも寄与した。	イベントの認知度をさらに高めるため、周知方法等を検討する必要がある。	
	課題解決に向けた取組	
	周知方法や事業内容の充実を図るとともに、観光協会との共催によりイベントを毎月開催する。	

■事業8 観光リーフレット作成

事業概要		
区内観光施設や名所・旧跡を紹介する日本語版及び外国語版のリーフレット等を作成する。		
事業実施内容	事業実績	
・観光ガイドマップ 日本語版77,000部、英語版15,000部、中国語版(簡体字)5,000部、中国語版(繁体字)5,000部、ハングル版3,000部を作成 ・おいしゅうございまっぷ 日本語版30,000部、英語版3,000部、中国語版(簡体字)2,000部を作成	当初予定数	—
	実績数 (日本語版)	107,000部(126,000部)(112,000部)
	申込数	—
成果	課題	
ガイドマップの形状及び掲載内容を一新し、観光インフォメーションやシビックセンター25階展望ラウンジ、区内観光関連施設等に配架した。また、まつりイベント等において積極的に配布することで、配布部数が29年度より18,000部増加し、本区の情報を区内外へ広く発信することができた。	効果的な配布方法を検討するとともに、Web版の充実を図る必要がある。	
	課題解決に向けた取組	
	30年度にリニューアルした観光ガイドマップを協定締結自治体主催のイベント等で配布し、区の観光PRを行った。	

(2)分野別目標2 情報の収集・活用による来訪の促進

前年度の課題と今後の対応・方向(要点)

- ①観光インフォメーションの強化
- ②文京区に対する興味・関心を惹く事業(例えば「文京区検定」など)の展開

【取組状況の評価】

- フィルムコミッション事業は、撮影件数が29年度5件から30年度9件に増加しており、今後も区の魅力を区内外へ発信する機会としての活用が期待できる。

《関連事業 20》

- 文京花の五大まつり等には、165万人が来訪しており、29年度から18万人増加したことから、文京区の魅力を発信する場として、区内外の方の認知度も高まっているといえる。

《関連事業 21》

【課題と今後の対応・方向】

①区と友好関係にある自治体との交流事業の拡充

区と友好関係にある自治体とのスポーツ・農業体験等のイベントを通じ、住民同士の交流を進めることで、相互の自治体に観光で訪れる動機を高める必要がある。

②区外への広報の促進

民間企業等へのパブリシティの方法を工夫し、区外に向けた情報発信を積極的に行うことにより、フィルムコミッション事業及び文京花の五大まつり等の周知や、区への来訪者の増加につなげる必要がある。

【参考事業】

■事業20 フィルムコミッション事業

事業概要		
映像制作事業者を積極的に誘致するとともに、円滑なロケーション撮影を行うための各種申請、調整等のサポートを行う。		
事業実施内容	事業実績	
撮影協力実績:9件	当初予定数	—
	実績数	9件(5件)(20件)
	申込数	—
成果	課題	
撮影協力件数の増加に伴い、区有施設がメディアで取り上げられる機会が増え、区の魅力を多方面に発信することができた。	より多くのメディアに対し、区内のロケーションを広く発信していく必要がある。	
	課題解決に向けた取組	
	先進自治体や民間事業者の取り組み等について、調査及び情報収集を行った。	

■事業21 花の五大まつり等助成

事業概要		
文京花の五大まつり、朝顔・ほおずき市、根津・千駄木下町まつりのPR及び実施に要する経費等の補助を行う。		
事業実施内容	事業実績	
さくらまつり:10万人、つつじまつり:55万人、あじさいまつり:10万人、菊まつり:30万人、梅まつり:45万人、朝顔・ほおずき市:5万人、下町まつり:10万人	当初予定数	—
	実績数	165万人(147万人)(148万人)
	申込数	—
成果	課題	
朝顔・ほおずき市及び根津・千駄木下町まつりでは、広範な会場を周回するシャトルバスを運行するなど、来訪者の周遊を促すとともに、地域の魅力発信に寄与する取り組みを行うことで、来場者が昨年度より1割以上増加した。	イベント内容の充実等により、まつりの魅力を一層高める必要がある。	
	課題解決に向けた取組	
	協定締結自治体による観光PR・物産ブースを増やすとともに、伝統芸能の披露等の新たな企画をプログラムに盛り込むことで、まつりの魅力の向上を図った。	

■事業22 国内交流事業

事業概要		
区と友好関係にある自治体との交流事業の拡充を図るほか、全国の自治体との事業協力を行う。		
事業実施内容	事業実績	
区内または対象地域内で、イベント、スポーツ、農業体験等を通じた住民同士の交流を行う団体に対し、経費の一部を補助する「文京区国内交流・連携事業補助金事業」を実施した。	当初予定数	10団体
	実績数	6団体(-)(10団体)
	申込数	7団体
成果	課題	
全国の地域で、住民同士によるスポーツ・文化体験等の交流事業を実施した6団体に対し、補助を行うことで交流促進につながった。 交流を行った自治体は、茨城県石岡市、茨城県神栖市、新潟県魚沼市(2団体)、島根県津和野町(2団体)の4市町。	文京区国内交流・連携事業補助金事業については、対象となる団体へ広く周知する必要がある。 当補助金事業以外に、広く区民が協定等締結自治体への興味や理解が深まる事業を検討する必要がある。	
	課題解決に向けた取組	
	文京区国内交流・連携事業補助金事業の周知については、文京区体育協会に加盟する団体へ案内を行った。 当補助金事業以外に、協定等締結自治体産の食材を活用し、料理を提供する区内飲食店に対して補助事業を実施する。	

(3)分野別目標3 持続可能な観光まちづくりを支える仕組みづくり

前年度の課題と今後の対応・方向(要点)

- ①区外から訪れる様々な来訪者への対応の充実
- ②外国人おもてなし語学ボランティアなどの発展的活用

【取組状況の評価】

○ 観光協会は、区と協働によるまつり等での観光PRや、観光写真コンクール等の様々な事業を実施し、観光客の誘致や観光振興に取り組んでおり、成果を出している。

《関連事業 23》

○ 外国人おもてなし隊育成事業では、語学ボランティア講座の参加者が、区のボランティア事業の参加につながるケースが多くあり、連携が図られている。

《関連事業 27》

【課題と今後の対応・方向】

①効率的な事業の実施

観光協会と連携している事業については、評価や効果測定を可能な範囲で行い、その結果を踏まえた効率的な事業の実施が必要である。

②区内企業との連携

社会貢献活動に熱心な区内の民間企業と連携することで、取り組みの幅が広がるのではないか。そのためには、区内企業との接点を持つ機会を創出する必要がある。

【参考事業】

■事業27 外国人おもてなし隊育成事業

事業概要		
平易な英語で外国人に対するおもてなしを学ぶ「外国人おもてなし語学ボランティア育成講座」や、区内留学生とやさしい日本語で交流する「日本語でおもてなしレベルアップ交流会」を実施する。		
事業実施内容	事業実績	
(1) 外国人おもてなし語学ボランティア育成講座 おもてなしや異文化コミュニケーションについて、映像やグループワークを通して学習する。 計5回実施、受講者241人	当初予定数	330人
	実績数	284人(259人)(207人)
	申込数	308人
(2) 日本語でおもてなしレベルアップ交流会 地域の外国人と日本人との交流及び相互理解の推進を図るため、やさしい日本語を使って外国人と交流する。 日時:平成31年1月26日14:00～16:00 場所:ABK学館 日本語学校(本駒込2-1-13) 参加者:日本人26人、留学生17人		
成果	課題	
29年度の「外国人おもてなし語学ボランティア育成講座」は、申込者が多く、高倍率であったため、30年度は講座回数を増やし、多くの方に受講いただいた。また、「日本語でおもてなしレベルアップ交流会」のアンケートでは、受講者の9割が満足度80%以上と回答しており、区民のおもてなし精神の醸成や外国人住民との相互交流の促進につながった。	「外国人おもてなし語学ボランティア育成講座」に関しては、前年度に比べて申込者数が減少しているため、往復はがきのみ申込方法を改善する必要がある。	
	課題解決に向けた取組 より簡便に講座に申込みができるように、区ホームページからの申込みを開始した。	

3. 分野別目標に対する事業を通じた達成状況

文京区アカデミー推進協議会委員(学識経験者)
観光・交流分科会座長 山田 徹雄

①分野別目標1 観光資源の発掘・保護を通じた文京区の魅力・個性の創出

文京区の観光資源を新たな視点からクローズアップすることにより、地域の魅力を創出することを目的とする当該事業は、多方面に及ぶ活動を通じて目標を達成することができた。観光写真コンクール、観光リーフレットの作成、デジタルジャーニーの実績は定量的に確認できるが、より多くの方に各事業への参加を促す手法等には、工夫の余地がある。

②分野別目標2 情報の収集・活用による来訪の促進

情報活用による来訪者の促進は、フィルムコミッション事業や文京花の五大まつりへの助成、友好関係のある自治体との交流事業等を通じて、目標を達成することができた。観光客の属性分析は、今後の課題として指摘する。

③分野別目標3 持続可能な観光まちづくりを支える仕組みづくり

持続可能な観光まちづくりのインフラ整備を目的に、観光協会との連携を図り、外国人おもてなし隊育成事業を実施するなど、積極的な取り組みは評価できる。今後は、コストパフォーマンスを意識した活動を展開することが望まれる。

④分野の総評

文京区の観光資源を再発見すると同時に、新たな企画を通じて来訪者の増加を図る試みは、所期の目的を達成し、観光面からサステイナブルなまちづくりを志向してきた。これらの事業は、それぞれ目標を達成し、評価に値する。

第6章 国際交流分野の点検・評価

1. 対象事業

(1) 国際交流分野における主要な事業

分野別目標1 国際理解を育む機会づくり		アカデミ ー計画	実施計画 事業	重点 施策
1	地域連携活動事業	○	○	
2	国際理解教育の推進	○	○	
3	国際交流フェスタ	○	○	
4	英語観光ガイド	○	○	
5	姉妹都市等との交流	○	○	
6	ドイツ・カイザースラウテルン市姉妹都市提携30周年記念 事業		○	○
7	海外都市との交流の活性化	○		
8	ホームステイ生徒交換事業	○	○	
9	区内大学、ボランティア団体等との協働・連携	○	○	
10	生涯学習講座での国際理解推進	○		
分野別目標2 外国人が快適に過ごせる環境づくり				
11	文京区紹介映像多言語版の公開	○		
12	外国人の日常生活支援のための多言語化	○		
13	通訳クラウドサービス活用による外国人相談等	○		
14	図書館における外国語の新聞・雑誌の提供	○		
15	配布物の多言語化(スポーツ振興課)	○		
16	配布物の多言語化(リサイクル清掃課)	○		
17	わかりやすいホームページの構築	○		
18	わかりやすいまちの表示	○		
19	防災対策での多言語対応	○		

(2) 分野別事業数

主要事業、主要事業を除き区が実施する各分野の事業数は、以下のとおり(再掲事業を含む)。

分野別目標	主要事業	その他の事業
【分野別目標1】 国際理解を育む機会づくり	10事業	3事業
【分野別目標2】 外国人が快適に過ごせる環境づくり	9事業	4事業

2. 主要な事業の成果に対する評価

(1) 分野別目標1 国際理解を育む機会づくり

前年度の課題と今後の対応・方向(要点)

- ① 姉妹都市交流事業の成果を浸透させる仕組みづくりや情報発信の強化
- ② 日本の文化、地域の文化に関する知識を習得し、発信する人材の育成

【取組状況の評価】

- ドイツ・カイザースラウテルン市をはじめ、姉妹都市等から多くの訪問団を受け入れており、交流が活発に行われている。

《関連事業 5、6、7、8》

- 国際交流フェスタでは、来場者の約10%を外国人が占めており、区在住外国人率が約5%であることを考慮すると、多くの外国人が来場している。また、文化体験等を通じて、広く日本人と外国人の交流が図られており、評価できる。

《関連事業 3》

【課題と今後の対応・方向】

① 事業目的の明確化

各事業の目的が抽象的であり、ターゲットを絞り込めていないため、事業の効果を判断することが難しい。事業に参加する外国人のニーズを把握する必要がある。

② 子どもたちが海外経験を積む機会の創出

姉妹都市であるドイツ・カイザースラウテルン市とのホームステイ事業は、応募人数も多く、区民の関心も高いが、ドイツ側の受け入れ先が限られるなど、事業の拡大が難しい状況である。そのため、ドイツ以外の国でも、子どもたちが海外経験を積むことができるよう、多角的な視点による検討が必要である。

また、多文化共生社会に対応できる人材を育成するため、国際交流フェスタ等の事業において、小中学生が外国人とコミュニケーションを図る機会の提供を検討する必要がある。

③ 新たな情報発信方法の導入

外国人の参加率が低い事業については、情報が十分に行き届いていない可能性も考えられるため、外国人がよく利用するメディアで情報発信するなど、低コストで導入できる方法を検討する必要がある。

【参考事業】

■事業3 国際交流フェスタ

事業概要		
日本人と外国人が、日本や世界各国の様々な文化が体験できる、国際交流フェスタを実施する。		
事業実施内容	事業実績	
実施日時：平成31年3月2日(土)10:00～16:00 参加者数：約1,100人 参加団体：37団体 事業内容：日本の伝統文化体験、国際交流サロン、ステージパフォーマンス、各国情報の紹介、各国食品の販売等	当初予定数	—
	実績数	1,100人(1,200人)(1,300人)
	申込数	—
成果	課題	
日本人と外国人が、日本や外国の様々な文化体験等を通じて交流し、相互理解を深めることができた。 平成30年に本区に移転したベナン共和国大使館が初めて参加し、より国際色豊かなイベントになった。	外国人来場者を増やすため、今まで取り上げていないジャンルも含め、様々な国や団体等を模索し、さらに多彩なプログラムを組み、魅力を高めていく必要がある。	
	課題解決に向けた取組	
	外国人来場者の増加に向けて、令和元年に目白台に開設された、東大インターナショナルビルディングへの周知を行う。また、来場者に様々な国の音楽・舞踊を楽しんでもらえるよう、ステージパフォーマンスの出演団体の見直しを行う。	

■事業8 ホームステイ生徒交換事業

事業概要		
姉妹都市カイザースラウテルン市との交流事業の一環として、中学生、高校生の派遣・受入を隔年で実施する。(2年で1サイクル)		
事業実施内容	事業実績	
平成30年7月18日から7月31日までの14日間、カイザースラウテルン市の生徒4人を受け入れた。受入期間中の公式行事として、区長表敬訪問、昼食会、区内・都内見学を行った。	当初予定数	H29・30年度4人
	実績数	H29・30年度4人 (H27・28年度4人)
	申込数	H29・30年度27人
成果	課題	
参加生徒とその家族は、本事業を通じて広い視野や価値観を身に付けており、更なる国際交流活動の意欲を高めている。また、国際交流フェスタでのボランティア等に参加し、区民等に対してカイザースラウテルン市の魅力をPRした。	参加生徒や受入れ家庭によるホームステイの経験・感動を、広く区民に還元する必要がある。	
	課題解決に向けた取組	
	文京シビックセンターで、参加生徒によるホームステイ報告会を実施した。	

(2)分野別目標2 外国人が快適に過ごせる環境づくり

前年度の課題と今後の対応・方向(要点)

- ①イベントでの通訳サポート等の充実
- ②英語観光ガイドの充実

【取組状況の評価】

- 外国人観光客に対する多言語での情報発信だけでなく、外国人住民の日常生活における支援を積極的に取り組んでいる状況は評価できる。

《関連事業 1、2、3、4、5、6、7、8、9》

【課題と今後の対応・方向】

①外国人住民に対するサービスの向上

外国人住民が日常生活において何に困っているのかを把握し、適切な支援を行う必要がある。文京区では、英中韓の翻訳に取り組んでいるが、今後、「やさしい日本語」を用いて情報を発信するとともに、区が「やさしい日本語」を習得する機会を提供する必要がある。

【参考事業】

■事業12 外国人の日常生活支援のための多言語化

事業概要		
外国人住民の日常生活に必要な行政文書の多言語化を行う。		
事業実施内容	事業実績	
対象文書:外国人住民の日常生活に必要な書類や案内パンフレット等 翻訳言語:英語、中国語(簡体字・繁体字)、ハングル 実績:戸籍住民課(個人番号カード記載票)、子ども家庭支援センター(案内パンフレット)、子育て支援課(児童手当支給の手引き)など6課 26文書	当初予定数	—
	実績数	26文書(13文書)(6文書)
	申込数	—
成果	課題	
庁内各部署が作成する文書の翻訳を継続して行うことにより、外国人住民の利便性向上に資するとともに、窓口業務の円滑化、効率化を図ることができた。	現在の翻訳対応言語は英語、中国語(簡体字・繁体字)、ハングルの4言語のみであるが、ほかに翻訳需要のある言語がないか把握する必要がある。 「やさしい日本語」を用いた情報発信について、検討する必要がある。	
	課題解決に向けた取組	
	過去に本事業を活用した部署に対し、現在の4言語以外に翻訳してほしい言語や「やさしい日本語」の需要について調査する。	

3. 分野別目標に対する事業を通じた達成状況

文京区アカデミー推進協議会委員(学識経験者)

観光・交流分科会座長 山田 徹雄

①分野別目標1 国際理解を育む機会づくり

国際交流フェスタやカイザースラウテルン市とのホームステイ生徒交換事業等を通じて、外国人が日本の理解を深めるとともに、日本人が外国の理解を深める事業が着実に行われてきたことは評価できる。

②分野別目標2 外国人が快適に過ごせる環境づくり

外国人が快適に過ごせる環境を整備するために、多言語対応を推進していることは、大いに評価すべきである。現状では、文京区の外国人居住比率が、他の地域と比較して高くはないが、引き続き環境整備の必要性について、認識を持つことが重要である。

③分野の総評

国際理解を育むための機会づくりにおいて、相互交流の観点から事業目標が達成されており、その実績は評価できる。一方、外国人が快適に過ごせる環境づくりに関しては、事業活動の規模が限定的であるが、そもそも外国人居住比率が比較的高くない現状に鑑み、適正なものと評価できる。

第7章 横断的施策の点検・評価

1. 主要な事業の成果に対する評価

(1) 情報の収集・共有・発信

前年度の課題と今後の対応・方向(要点)

- ① 区民の自主的な活動の継続
- ② SNSを活用した情報発信及び従来の広報手段の充実

【取組状況の評価】

- 区報やホームページなどの従来からある広報手段については、ほとんどの事業で活用されており、多くの区民の情報源となっている。事業のパンフレットも情報が整理され、わかりやすく作成されている。

【課題と今後の対応・方向】

① 新規参加者を増やすための周知

チラシやパンフレットが、ターゲットに十分に行き届いていない部分がある。リピーターだけでなく、新たに事業へ参加する人を増やすためには、不特定多数の人が情報を目にする機会を作っていく必要がある。

② SNSの活用促進

SNSの活用は進んでいるが、年代や国籍などによってツールを使い分けるなど、より効果的な手段を検討した上で、情報発信をしていく必要がある。

③ 障害者や外国人などに対するきめ細かい支援

障害者や外国人などの情報が届きにくい方に対し、分野を超えて相互に連携しながら支援する取り組みを進めていく必要がある。

④ 全分野を統合した施策の推進

生涯学習、スポーツ、文化芸術、観光、国内・国際交流の全分野を視野に入れ、それらの資源や拠点をめぐるウォーキングルートの作成、学習コンテンツの充実、健康増進プログラムの作成など、各分野の情報を集約することで、全分野を統合した施策を推進してほしい。

(2)協働する人材の育成

前年度の課題と今後の対応・方向(要点)

- ①大学や学生の状況を踏まえた参加型活動を目指した文京バックアップーズの充実

【取組状況の評価】

- 区が実施する事業において、ボランティアの協力は不可欠であり、年々重要性は高まっている。ボランティア同士で協力しながら、事業の運営をサポートしているケースもあり、積極的な活動が行われている。

【課題と今後の対応・方向】

①参加しやすい動機づくり

需要に対して人材の供給が足りていない事業もあり、協働する人材を増やしていくためにも、活動に対する参加者のインセンティブを考えていくことが必要だろう。

(3)東京2020オリンピック・パラリンピック

前年度の課題と今後の対応・方向(要点)

- ①東京2020大会後の事業の総括及び継続の検討

【取組状況の評価】

- 東京2020大会に関するイベントについては、スポーツだけでなく、音楽やダンスをテーマにした文化的要素のある事業も多く、分野を超えて取り組みを行っている。参加人数についても、平成29年度の3,127人から、平成30年度の4,478人と大幅に増加している。

【課題と今後の対応・方向】

①東京2020大会後のスポーツ活動の継続とレガシーの継承

東京2020大会を契機に、ボッチャなどの障害者スポーツやボランティアなどのスポーツを支えることへの関心が高まってきているが、一過性のものとならないよう、大会後どのように継続させていくか検討するとともに、いかにレガシーを継承していくかについても、広い視野を持って考えていく必要がある。

第2部 計画全体の点検・評価

第1章 計画全体の点検・評価の考え方

1. 概要

現在の計画は、分野ごとに「分野別目標」を掲げており、ここでの点検・評価では、各分野別目標の満足度及び重要度に着目し、取組状況を測るものである。また、令和2年度の計画改定を見据えて、分野別に重視すべき視点も把握する。

2. 手法

(1)点検・評価手法

点検・評価は、実態調査として実施した区民向け調査、事業参加者向け調査の結果を用いる。

区民向け調査を用いた点検・評価では、第一に分野別目標ごとの満足度を用いて、アカデミー推進計画に基づく取り組みが広く区民に知られ、満足を得ているのかという点を点検・評価する。第二として、各分野の分野別目標の満足度と重要度を点数化し、相対的に「重要度が高く、満足度が低い分野別目標」を抽出し、改定に際して当該分野において特に重視すべき分野別目標を把握する。

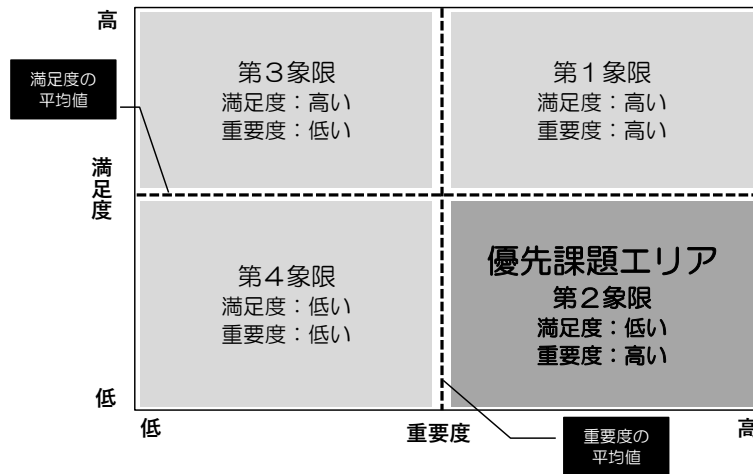
事業参加者向け調査を用いた点検・評価では、事業に実際に参加した人を直接的に事業の成果を享受している人と捉え、そのような立場の人が分野別目標で示したことを実感しているかどうかを、満足度という指標で捉える。

それによって、2つの立場から計画全体での点検・評価を総合的に行う。

「重要度が高く、満足度が低い分野別目標」の抽出について

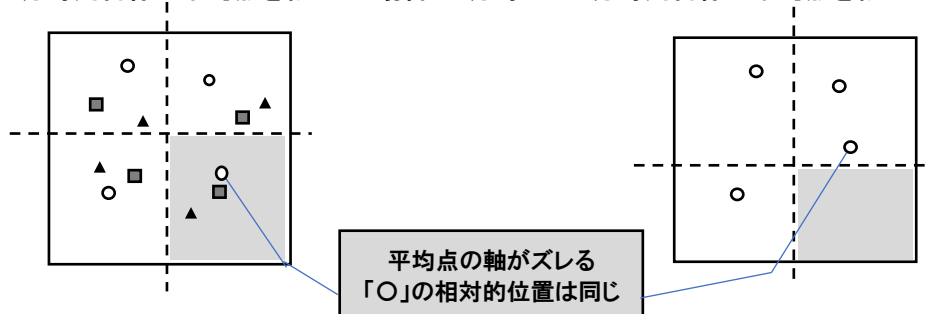
満足度・重要度の四段階評価を低い方から1点、2点、3点、4点と配点し、回答結果から平均点を算出する。横軸を重要度、縦軸を満足度として、各軸の中心を各分野の分野別目標の平均点として下記のような4つのブロックをつくり、分野別目標の満足度・重要度の点数に従って、どのブロックに位置づけられるか分析する。

4つのブロックは、下記のように分類でき、右下に位置づけられる分野別目標が、相対的に「重要度が高く、満足度が低い」ものとなり、分野別目標のなかでは優先的に取り組むべきと考えられる。

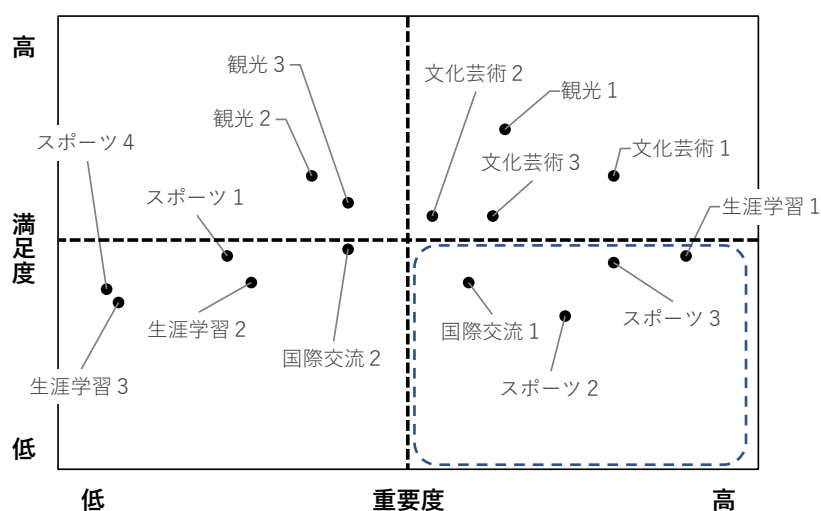


計画全体で見た分野別目標の優先度を把握する場合は、すべての分野別目標の満足度と重要度を対象に分析する必要があるが、分野ごとに分野別目標の優先度を把握する場合は、分野ごとに分野別目標の満足度と重要度を用いて分析する必要がある。

すべての分野別目標の平均点を軸とした場合 分野ごとの分野別目標の平均点を軸とした場合



(参考)すべての分野別目標の平均点を軸とした場合(実態調査報告書より)



■調査概要

調査名	概要
区民向け調査	<ul style="list-style-type: none"> ○対象: 満20歳以上の区民2,000人(住民基本台帳より無作為抽出) ○手法: 郵送配付、郵送回収(インターネットによる回答可) ○回収数: 750件 ○回収率: 37.5%
事業参加者向け調査	<ul style="list-style-type: none"> ○対象: 生涯学習、スポーツ、文化芸術、観光、国内・国際交流の5分野に関する事業の参加者 ○手法: QRコードを記載したアンケートを配付し、インターネットで回答 ○回収数: 150件

(2)協議会による協議

協議会において、分野別目標の優先的に取り組むべきものを把握するため、満足度と重要度に着目して評価を行うこととした。また、重要度が高く、満足度が低い分野別目標については、重点的に取り組むものとした。

第2章 生涯学習分野の点検・評価

1. 区民向け調査に基づく点検・評価

(1) 分野別目標に対する満足度・重要度

区民向け調査から得られた生涯学習分野の分野別目標に対する満足度・重要度は、以下のとおりである¹。

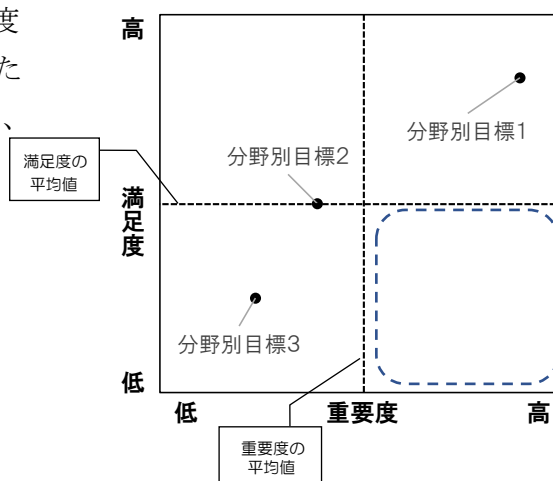
分野別目標	満足度	重要度
【分野別目標1】 いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会の提供・充実	34.8%	90.0%
【分野別目標2】 一人ひとりの学びの成果を活かす機会の提供・充実	30.9%	76.7%
【分野別目標3】 学びの継続を通じたまちづくり	28.9%	73.3%
分野平均	31.5%	80.0%

(2) 区民の満足度・重要度からみた取組状況

分野別目標1は、満足度が34.8%、重要度が90.0%で、3つの分野別目標の中で満足度が相対的に高い。また、分野別目標2は、満足度が30.9%、重要度が76.7%、分野別目標3は、満足度が28.9%、重要度が73.3%であり、すべての分野別目標において、満足度を向上させる更なる取り組みが必要である。

(3) 分野別目標の優先度

右図は、生涯学習分野の分野別目標の満足度と重要度を点数化し、それぞれの平均値を軸としたグラフ上にプロットしたものである。この図によると、第2象限に入る分野別目標は見られない。



¹ ここでいう満足度／重要度とは、分野別目標に示された取組内容に対する満足度／重要度を4段階評価で尋ねた際に「満足である／重要である」「どちらかといえば満足である／どちらかといえば重要である」と回答した人の割合である。

重要度は、回答者の関心の有無や活動状況に関わらず、客観的な視点から回答することができるが、満足度は、回答者がその分野について関心を持っていない、または事業を知らない、参加したことがない場合、評価が厳しくなると考えられ、その人数が多くなればなるほど、重要度と満足度の回答結果に、差が生じる可能性がある。

2. 事業参加者向け調査に基づく点検・評価

(1) 分野別目標に対する満足度

生涯学習分野の事業参加者の分野別目標に対する満足度は、以下のとおりである²。

分野別目標	満足度
【分野別目標1】 いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会の提供・充実	75.6%
【分野別目標2】 一人ひとりの学びの成果を活かす機会の提供・充実	70.7%
【分野別目標3】 学びの継続を通じたまちづくり	61.0%
分野平均	69.1%

(2) 事業参加者の満足度からみた取組状況

分野別目標1「いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会の提供・充実」の満足度は75.6%、分野別目標2「一人ひとりの学びの成果を活かす機会の提供・充実」は70.7%、分野別目標3「学びの継続を通じたまちづくり」は61.0%と、いずれも半数以上の参加者が満足している状況である。

いずれの満足度も区民向け調査と比べると高くなっており、実際に生涯学習事業に参加している人は、分野別目標に対する取組みに満足していると考えられる。

3. まとめ

- ・3つの分野別目標のうち、優先すべき取組みの視点で、該当するものはない。
 - ・事業参加者における満足度は、7割前後であるが、実態調査では回答者の中で区の事業等に参加している方が少ないと考えられることから、満足度は低くなっている。
- このことから、事業参加者には、取組状況が認識されているが、事業への参加が限定的であることから、区民全体には、取組状況が伝わっていないことが言える。

² 事業参加者向け調査における満足度の算出方法は、区民向け調査と同様である。上記の満足度は、事業参加者のうち生涯学習分野の事業に参加した41名の回答に基づいている。

第3章 スポーツ分野の点検・評価

1. 区民向け調査に基づく点検・評価

(1) 分野別目標に対する満足度・重要度

区民向け調査から得られたスポーツ分野の分野別目標に対する満足度・重要度は、以下のとおりである。

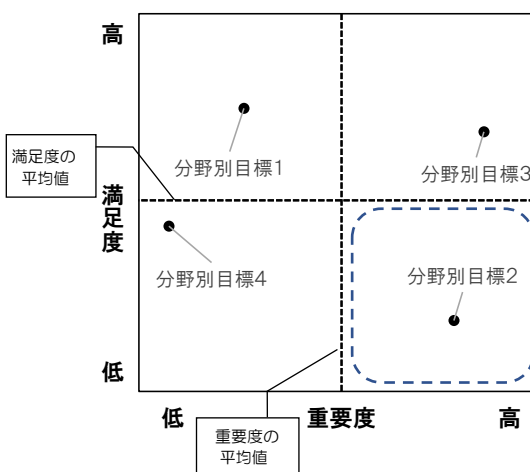
分野別目標	満足度	重要度
【分野別目標1】 スポーツを身近に感じる機会の拡充	35.6%	76.9%
【分野別目標2】 いつでも、どこでも、だれでも気軽に楽しめるスポーツ活動の促進	29.3%	87.6%
【分野別目標3】 スポーツ活動を支える環境の整備	36.3%	86.4%
【分野別目標4】 スポーツを通じた仲間づくりと交流	31.2%	74.1%
分野平均	33.1%	81.3%

(2) 区民の満足度・重要度からみた取組状況

分野別目標1は、満足度が35.6%、重要度が76.9%、分野別目標3は、満足度が36.3%、重要度が86.4%である。満足度は他の2つの分野別目標より相対的に高い。また、分野別目標2は、満足度が29.3%、重要度が87.6%、分野別目標4は、満足度が31.2%、重要度が74.1%であり、すべての分野別目標において、満足度を向上させる更なる取り組みが必要である。

(3) 分野別目標の優先度

右図は、スポーツ分野の分野別目標の満足度と重要度を点数化し、それぞれの平均値を軸としたグラフ上にプロットしたものである。この図によると、分野別目標2「いつでも、どこでも、だれでも気軽に楽しめるスポーツ活動の促進」が、第2象限に該当する。



2. 事業参加者向け調査に基づく点検・評価

(1) 分野別目標に対する満足度

スポーツ分野の事業参加者の分野別目標に対する満足度は、以下のとおりである³。

分野別目標	満足度
【分野別目標1】 スポーツを身近に感じる機会の拡充	80.0%
【分野別目標2】 いつでも、どこでも、だれでも気軽に楽しめるスポーツ活動の促進	76.0%
【分野別目標3】 スポーツ活動を支える環境の整備	64.0%
【分野別目標4】 スポーツを通じた仲間づくりと交流	60.0%
分野平均	70.0%

(2) 事業参加者の満足度からみた取組状況

分野別目標1「スポーツを身近に感じる機会の拡充」の満足度は80.0%、分野別目標2「いつでも、どこでも、だれでも気軽に楽しめるスポーツ活動の促進」は76.0%、分野別目標3「スポーツ活動を支える環境の整備」は64.0%、分野別目標4「スポーツを通じた仲間づくりと交流」は60.0%と、いずれも半数以上の参加者が満足している状況である。

いずれの満足度も区民向け調査と比べると高くなっており、実際にスポーツ事業に参加している人は、分野別目標に対する取り組みに満足していると考えられる。

3. まとめ

- ・4つの分野別目標のうち、優先すべき取り組みには、分野別目標2「いつでも、どこでも、だれでも気軽に楽しめるスポーツ活動の促進」が該当する。
 - ・事業参加者における満足度は、7割前後であるが、実態調査では、回答者の中で区の事業等に参加している方が少ないと考えられることから、満足度は低くなっている。
- このことから、事業参加者には、取組状況が認識されているが、事業への参加が限定的であることから、区民全体には、取組状況が伝わっていないことが言える。

³ 上記の満足度は、事業参加者のうちスポーツ分野の事業に参加した25名の回答に基づいている。

第4章 文化芸術分野の点検・評価

1. 区民向け調査に基づく点検・評価

(1) 分野別目標に対する満足度・重要度

区民向け調査から得られた文化芸術分野の分野別目標に対する満足度・重要度は、以下のとおりである。

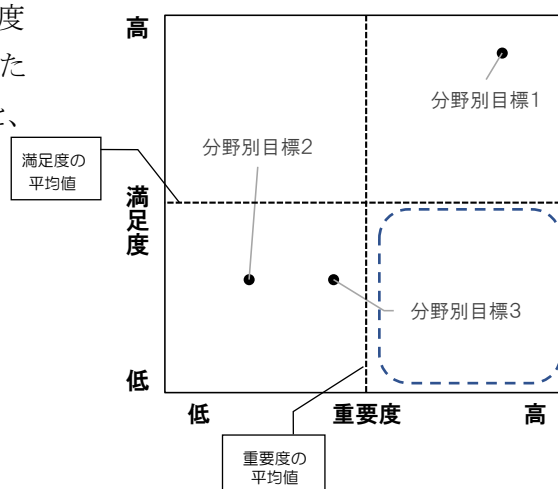
分野別目標	満足度	重要度
【分野別目標1】 だれもが文化芸術に親しむことができる環境づくり	42.3%	89.1%
【分野別目標2】 文化芸術を鑑賞・創造する活動の支援	38.5%	84.4%
【分野別目標3】 「文の京」の文化を守り、伝え、活用する仕組みづくり	39.0%	85.1%
分野平均	40.0%	86.2%

(2) 区民の満足度・重要度からみた取組状況

分野別目標1は、満足度が42.3%、重要度が89.1%で、3つの分野別目標の中で満足度が相対的に高い。また、分野別目標2は、満足度が38.5%、重要度が84.4%、分野別目標3は、満足度が39.0%、重要度が85.1%であり、すべての分野別目標において、満足度を向上させる更なる取り組みが必要である。

(3) 分野別目標の優先度

右図は、文化芸術分野の分野別目標の満足度と重要度を点数化し、それぞれの平均値を軸としたグラフ上にプロットしたものである。この図によると、第2象限に入る分野別目標は見られない。



2. 事業参加者向け調査に基づく点検・評価

(1) 分野別目標に対する満足度

文化芸術分野の事業参加者の分野別目標に対する満足度は、以下のとおりである⁴。

分野別目標	満足度
【分野別目標1】 だれもが文化芸術に親しむことができる環境づくり	87.2%
【分野別目標2】 文化芸術を鑑賞・創造する活動の支援	79.5%
【分野別目標3】 「文の京」の文化を守り、伝え、活用する仕組みづくり	82.0%
分野平均	83.0%

(2) 事業参加者の満足度からみた取組状況

分野別目標1「だれもが文化芸術に親しむことができる環境づくり」の満足度は87.2%、分野別目標2「文化芸術を鑑賞・創造する活動の支援」は79.5%、分野別目標3「「文の京」の文化を守り、伝え、活用する仕組みづくり」は82.0%と、いずれも半数以上の参加者が満足している状況である。

いずれの満足度も区民向け調査と比べると高くなっており、実際に文化芸術事業に参加している人は、分野別目標に対する取り組みに満足していると考えられる。

3. まとめ

- ・3つの分野別目標のうち、優先すべき取り組みの視点で、該当するものはない。
 - ・事業参加者における満足度は、8割前後であるが、実態調査では回答者の中で区の事業等に参加している方が少ないと考えられることから、満足度は低くなっている。
- このことから、事業参加者には、取組状況が認識されているが、事業への参加が限定的であることから、区民全体には、取組状況が伝わっていないことが言える。

⁴ 上記の満足度は、事業参加者のうち文化芸術分野の事業に参加した39名の回答に基づいている。

第5章 観光分野の点検・評価

1. 区民向け調査に基づく点検・評価

(1) 分野別目標に対する満足度・重要度

区民向け調査から得られた観光分野の分野別目標に対する満足度・重要度は、以下のとおりである。

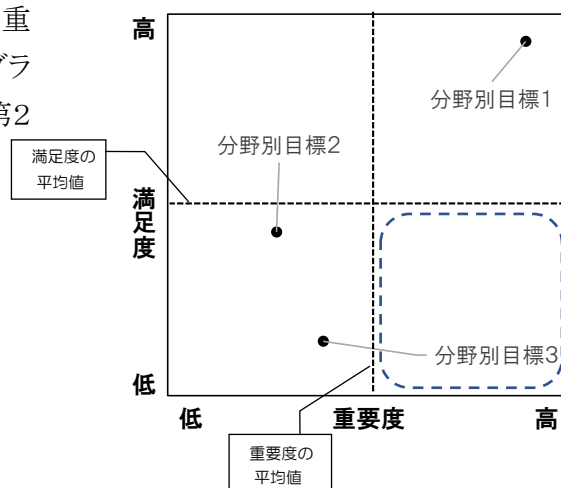
分野別目標	満足度	重要度
【分野別目標1】 観光資源の発掘や保護を通じた文京区の魅力・個性の創出	47.5%	85.7%
【分野別目標2】 情報の収集・発信による来訪の促進	41.5%	79.3%
【分野別目標3】 持続可能な観光まちづくりを支える仕組みづくり	38.9%	79.4%
分野平均	42.6%	81.5%

(2) 区民の満足度・重要度からみた取組状況

分野別目標1は、満足度が47.5%、重要度が85.7%で、3つの分野別目標の中で満足度が相対的に高い。また、分野別目標2は、満足度が41.5%、重要度が79.3%、分野別目標3は、満足度が38.9%、重要度が79.4%であり、すべての分野別目標において、満足度を向上させる更なる取り組みが必要である。

(3) 分野別目標の優先度

右図は、観光分野の分野別目標の満足度と重要度を点数化し、それぞれの平均値を軸としたグラフ上にプロットしたものである。この図によると、第2象限に入る分野別目標は見られない。



2. 事業参加者向け調査に基づく点検・評価

(1) 分野別目標に対する満足度

観光分野の事業参加者の分野別目標に対する満足度は、以下のとおりである⁵。

分野別目標	満足度
【分野別目標1】 観光資源の発掘や保護を通じた文京区の魅力・個性の創出	72.0%
【分野別目標2】 情報の収集・発信による来訪の促進	64.0%
【分野別目標3】 持続可能な観光まちづくりを支える仕組みづくり	76.0%
分野平均	70.7%

(2) 事業参加者の満足度からみた取組状況

分野別目標1「観光資源の発掘や保護を通じた文京区の魅力・個性の創出」の満足度は72.0%、分野別目標2「情報の収集・発信による来訪の促進」は64.0%、分野別目標3「持続可能な観光まちづくりを支える仕組みづくり」は76.0%と、いずれも半数以上の参加者が満足している状況である。

いずれの満足度も区民向け調査と比べると高くなっており、実際に観光事業に参加している人は、分野別目標に対する取り組みに満足していると考えられる。

3. まとめ

- ・3つの分野別目標のうち、優先すべき取り組みの視点で、該当するものはない。
 - ・事業参加者における満足度は、7割前後であるが、実態調査では回答者の中で区の事業等に参加している方が少ないと考えられることから、満足度は低くなっている。
- このことから、事業参加者には、取組状況が認識されているが、事業への参加が限定的であることから、区民全体には、取組状況が伝わっていないことが言える。

⁵ 上記の満足度は、事業参加者のうち観光分野の事業に参加した25名の回答に基づいている。

第6章 国際交流分野の点検・評価

1. 区民向け調査に基づく点検・評価

(1) 分野別目標に対する満足度・重要度

区民向け調査から得られた国際交流分野の分野別目標に対する満足度・重要度は、以下のとおりである。

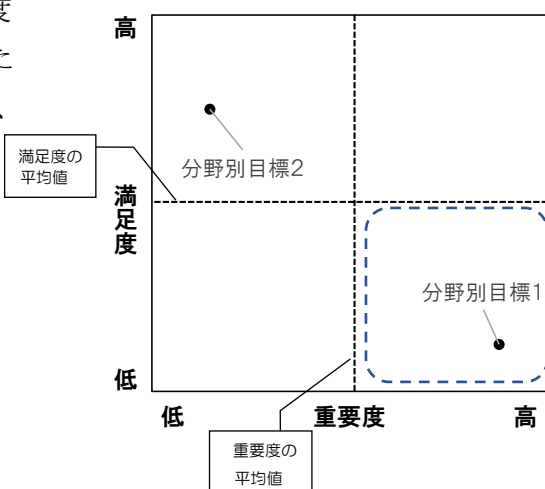
分野別目標	満足度	重要度
【分野別目標1】 国際理解を育む機会づくり	30.0%	83.7%
【分野別目標2】 外国人が快適に過ごせる環境づくり	32.7%	78.5%
分野平均	31.4%	81.1%

(2) 区民の満足度・重要度からみた取組状況

分野別目標1は、満足度が30.0%、重要度が83.7%、分野別目標2は、満足度が32.7%、重要度が78.5%であり、いずれも満足度を向上させる更なる取り組みが必要である。

(3) 分野別目標の優先度

右図は、国際交流分野の分野別目標の満足度と重要度を点数化し、それぞれの平均値を軸としたグラフ上にプロットしたものである。この図によると、分野別目標1「国際理解を育む機会づくり」が、第2象限に該当する。



2. 事業参加者向け調査に基づく点検・評価

(1) 分野別目標に対する満足度

国際交流分野の事業参加者の分野別目標に対する満足度は、以下のとおりである⁶。

分野別目標	満足度
【分野別目標1】 国際理解を育む機会づくり	70.0%
【分野別目標2】 外国人が快適に過ごせる環境づくり	55.0%
分野平均	62.5%

(2) 事業参加者の満足度からみた取組状況

分野別目標1「国際理解を育む機会づくり」の満足度は70.0%、分野別目標2「外国人が快適に過ごせる環境づくり」は55.0%と、いずれも半数以上の参加者が満足している状況である。

ただし、分野別目標2は、分野別目標1に比べて満足度が低くなっている。これは、分野別目標2の取組内容が、主に外国人を対象とした生活支援であるため、国際交流事業に参加していても取組状況を実感できないことによるものと推察される。

3. まとめ

- ・2つの分野別目標のうち、優先すべき取り組みには、分野別目標1「国際理解を育む機会づくり」が該当する。
- ・事業参加者における満足度は、5割以上であるが、実態調査では、回答者の中で区の事業等に参加している方が少ないと考えられることから、満足度は低くなっている。
このことから、事業参加者には、取組状況が認識されているが、事業への参加が限定的であることから、区民全体には、取組状況が伝わっていないことが言える。

⁶ 上記の満足度は、事業参加者のうち国際交流分野の事業に参加した20名の回答に基づいている。

【参考】

文京区アカデミー推進協議会委員名簿（令和元年度及び令和2年度）

	分野	氏名	団体等
1	学識経験者	山田 徹雄	跡見学園女子大学名誉教授
2	学識経験者	田中 雅文	日本女子大学人間社会学部教授
3	学識経験者	青木 和浩	順天堂大学スポーツ健康科学部教授
4	生涯学習関係団体	増田 純	文京アカデミア学習推進委員会
5	生涯学習関係団体	片貝 憲二	文京アカデミア生涯学習支援者の会
6	スポーツ関係団体	井上 充代	文京区スポーツ推進委員会
7	スポーツ関係団体	酒井 宏	文京区体育協会
8	文化芸術関係団体	高澤 芳郎	シエナ・ウインド・オーケストラ
9	文化芸術関係団体	牧野 恒良	公益社団法人 宝生会
10	観光関係団体	白井 圭子	一般社団法人文京区観光協会
11	商工団体	関 誠	東京商工会議所文京支部
12	国内交流団体	宮内 秀和	津和野町東京事務所
13	国際関係団体	佃 吉一	公益財団法人 アジア学生文化協会
14	区民	堀 正孝	区民公募委員
15	区民	山内 豊	区民公募委員
16	区民	高橋 由貴子	区民公募委員
17	区民	小島 えりか	区民公募委員
18	区民	今井 瑛里子	区民公募委員

文京区アカデミー推進計画に関する実態調査
報告書【概要版】

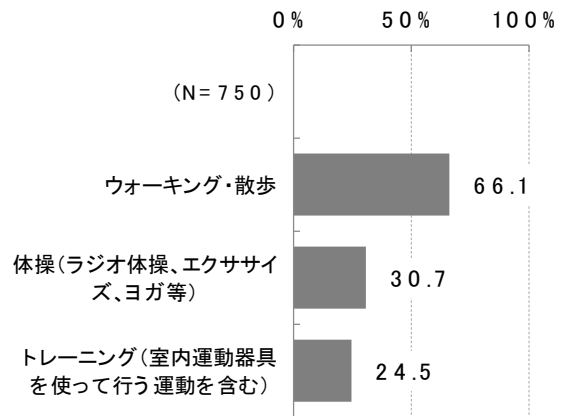
令和2年2月

1 スポーツに関する項目について

(1) スポーツを「する」ことについて

過去1年間に実施したスポーツをみると、「ウォーキング・散歩」が66.1%と最も多く、次いで「体操(ラジオ体操、エクササイズ、ヨガ等)」が30.7%、「トレーニング(室内運動器具を使って行う運動を含む)」が24.5%となっています。また、実施しなかった人の割合は10.8%です。

区の週1日以上スポーツ実施率は54.9%であり、国(55.3%)や東京都(57.2%)と比べて低くなっています。

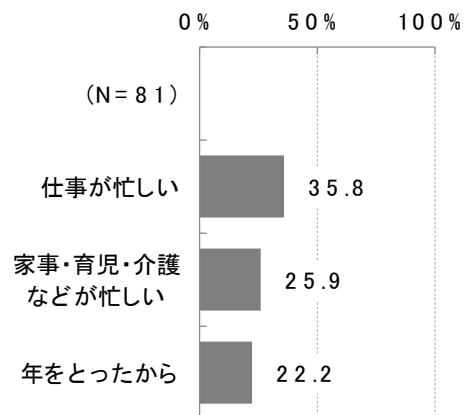


※上記のような複数回答のグラフ(横棒グラフ)は、割合が上位の項目のみ掲載しています。以下、同様。

※週1日以上スポーツ実施率は、週に1日以上実施している人(412人)を、本調査全体の回答者数(750人)で除して求めています。

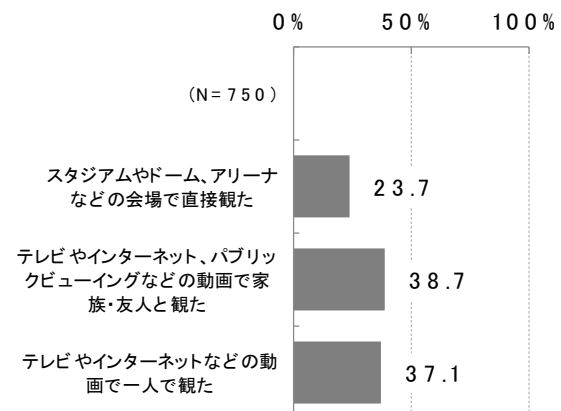
(2) スポーツをしない理由について

過去1年間にスポーツを実施しなかった理由をみると、「仕事が忙しい」が35.8%と最も多く、次いで「家事・育児・介護などが忙しい」が25.9%、「年をとったから」が22.2%となっています。



(3) スポーツを「みる」ことについて

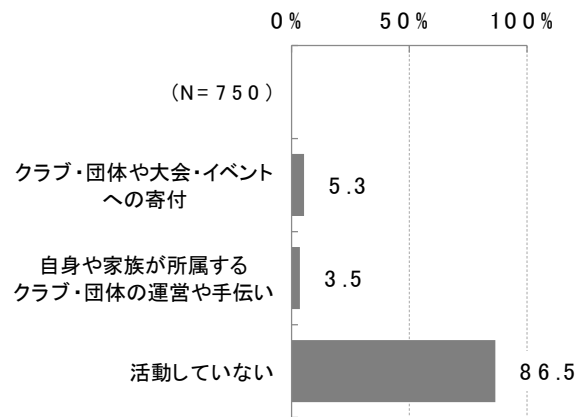
過去1年間にプロスポーツ大会や世界大会等のレベルの高い試合を「スタジアムやドーム、アリーナなどの会場で直接観た」は23.7%となっており、東京都(41.1%)と比べて低くなっています。



(4)スポーツを「ささえる」ことについて

過去1年間にスポーツボランティア活動をした人の割合は10.7%であり、国(10.6%)とほぼ同じですが、東京都(14.6%)と比べると低くなっています。

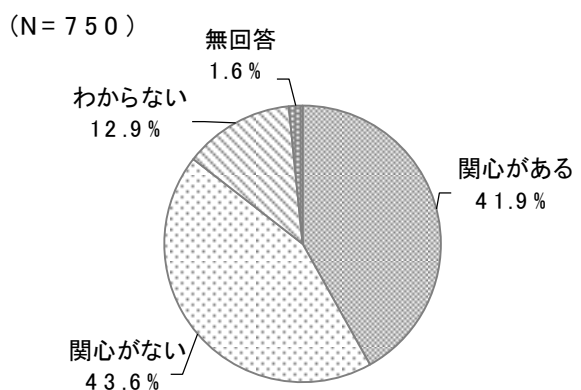
活動内容をみると、「クラブ・団体や大会・イベントへの寄付」が5.3%と最も多く、次いで「自身や家族が所属するクラブ・団体の運営や手伝い」が3.5%となっています。また、活動していない人の割合は86.5%です。



※過去1年間にスポーツボランティア活動をした人の割合は、100%から「活動していない」(86.5%)と「無回答」(2.8%)を除いて求めています。

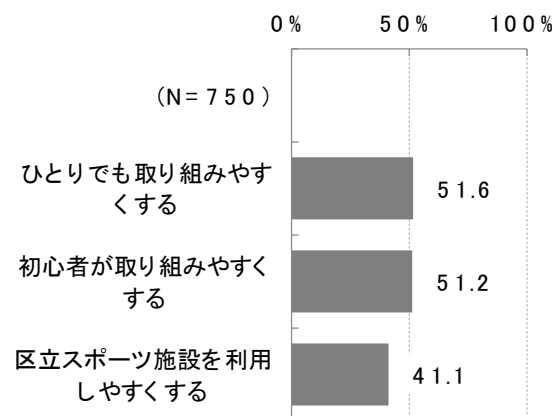
(5)障害者スポーツの関心について

障害者スポーツに「関心がある」が41.9%（「関心がある」と「やや関心がある」の合計）となっており、東京都(59.2%)と比べて低くなっています。



(6)区が力を入れるべき取組の視点について

文京区でスポーツを実施する人が増えるために、区がより力を入れるべき取組の視点をみると、「ひとりでも取り組みやすくする」が51.6%と最も多く、次いで「初心者が取り組みやすくする」が51.2%、「区立スポーツ施設を利用しやすくする」が41.1%となっています。



※国の調査は、スポーツ庁(平成31年)「スポーツの実施状況等に関する世論調査」と比較しています。

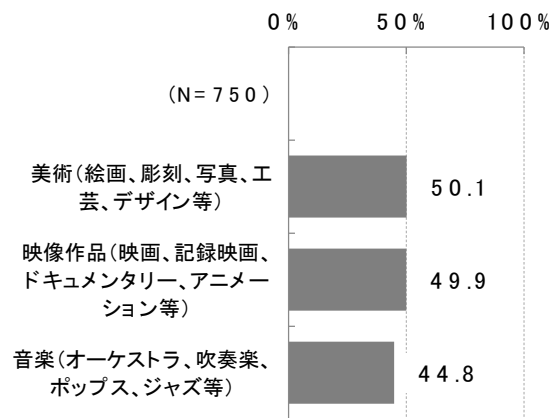
※東京都の調査は、東京都生活文化局(平成30年)「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査」と比較しています。

2 文化芸術に関する項目について

(1)文化芸術を鑑賞することについて

「美術（絵画、彫刻、写真、工芸、デザイン等）」が50.1%と最も多く、次いで「映像作品（映画、記録映画、ドキュメンタリー、アニメーション等）」が49.9%、「音楽（オーケストラ、吹奏楽、ポップス、ジャズ等）」が44.8%となっています。また、鑑賞しなかった人の割合は17.6%です。

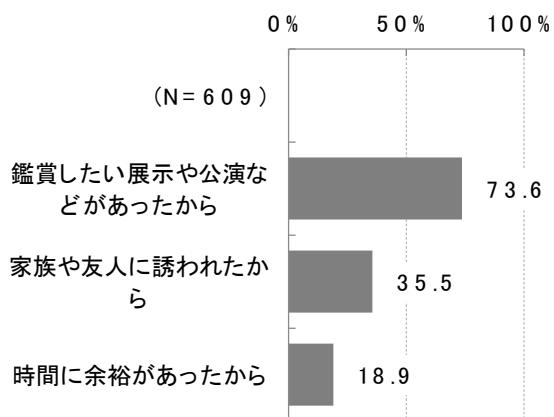
過去1年間に出かけて文化芸術を鑑賞した人の割合は81.2%であり、国（53.9%）や東京都（72.6%）と比べて高くなっています。



※過去1年間に出かけて文化芸術を鑑賞した人の割合は、100%から「鑑賞しなかった」(17.6%)と「無回答」(1.2%)を除いて求めています。

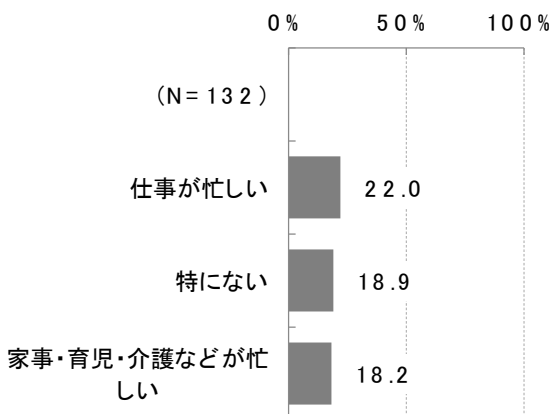
(2)文化芸術を鑑賞したきっかけについて

「鑑賞したい展示や公演などがあったから」が73.6%と最も多く、次いで「家族や友人に誘われたから」が35.5%、「時間に余裕があったから」と「広告・チラシ・テレビ等を見たから」が18.9%となっています。



(3)文化芸術を鑑賞しない理由について

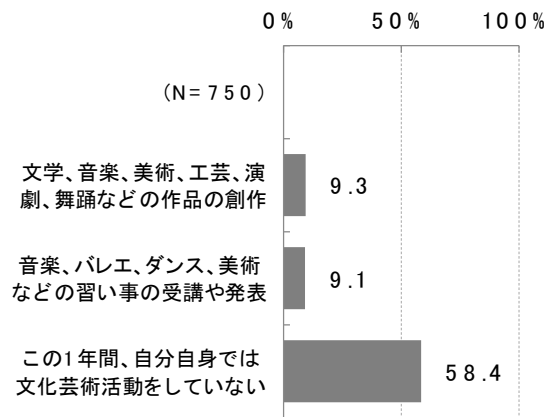
過去1年間に文化ホールや美術館、博物館、劇場、映画館などに出かけて文化芸術を鑑賞しなかった理由をみると、「仕事が忙しい」が22.0%と最も多く、次いで「特にない」が18.9%、「家事・育児・介護などが忙しい」が18.2%となっています。



(4)文化芸術の活動状況について

過去1年間に自ら文化芸術の活動をした人の割合は32.4%であり、国(25.3%)や東京都(30.1%)と比べて高くなっています。また、活動をしていない人の割合は58.4%です。

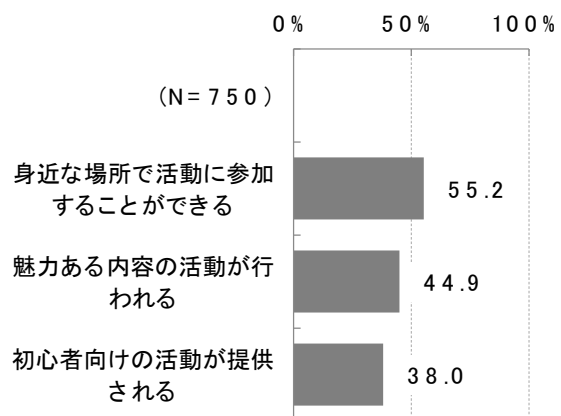
活動内容をみると「文学、音楽、美術、工芸、演劇、舞踊などの作品の創作」が9.3%と最も多く、次いで「音楽、バレエ、ダンス、美術などの習い事の受講や発表」が9.1%となっています。



※過去1年間に自ら文化芸術の活動をした人の割合は、100%から「活動をしていない」(58.4%)と「わからない」(4.7%)、「無回答」(4.5%)を除いて求めています。

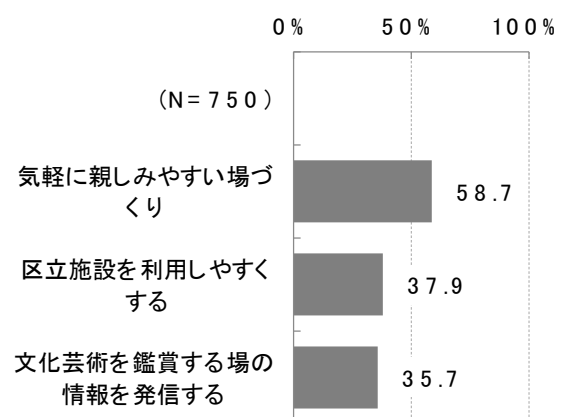
(5)文化芸術の活動に参加しやすくなるための取組について

区民が文化芸術の活動に参加しやすくなるために、区がより力を入れるべき取組をみると、「身近な場所で活動に参加することができる」が55.2%と最も多く、次いで「魅力ある内容の活動が行われる」が44.9%、「初心者向けの活動が提供される」が38.0%となっています。



(6)区が力を入れるべき取組の視点について

文化芸術に親しむ人が増えるために、区がより力を入れるべき取組の視点をみると、「気軽に親しみやすい場づくり」が58.7%と最も多く、次いで「区立施設を利用しやすくする」が37.9%、「文化芸術を鑑賞する場の情報を発信する」が35.7%となっています。



※国の調査は、文化庁(平成31年)「文化に関する世論調査」と比較しています。

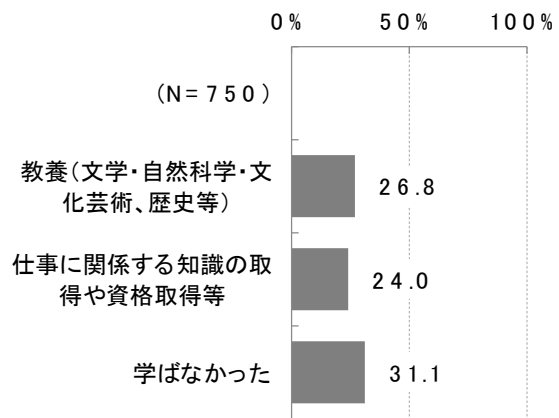
※東京都の調査は、東京都生活文化局(平成29~30年)「文化に関する世論調査」と比較しています。

3 学習活動に関する項目について

(1) 学習活動をすることについて

過去1年間に学んだことのある人の割合は67.2%で、前回調査(38.1%)と比べて高くなっています。また、学ばなかった人の割合は31.1%です。

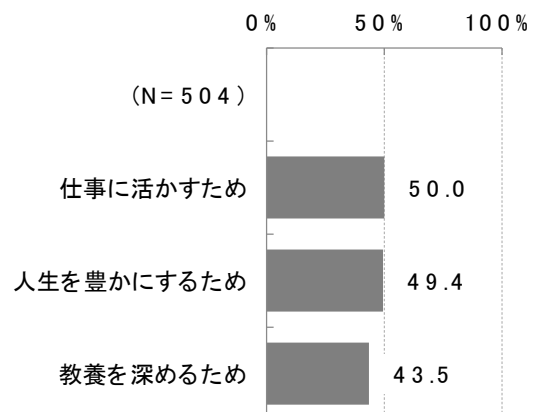
学んだ分野をみると、「教養(文学・自然科学・文化芸術、歴史等)」が26.8%と最も多く、「仕事に関する知識の取得や資格取得等」が24.0%となっています。



※過去1年間に学んだことのある人の割合は、100%から「学ばなかった」(31.1%)と「無回答」(1.7%)を除いて求めています。

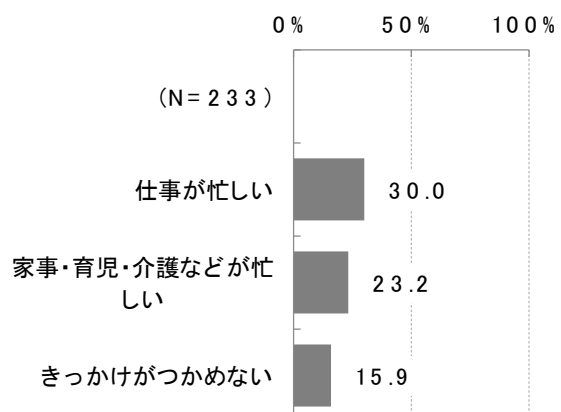
(2) 学んだ理由について

学んだ理由をみると、「仕事に活かすため」が50.0%と最も多く、次いで「人生を豊かにするため」が49.4%、「教養を深めるため」が43.5%となっています。



(3) 学ばなかった理由について

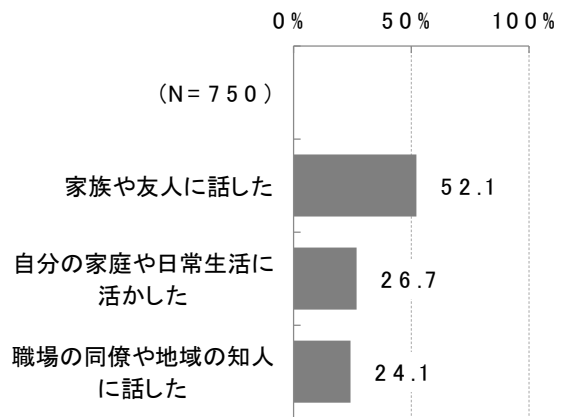
学ばなかった理由をみると、「仕事が忙しい」が30.0%と最も多く、次いで「家事・育児・介護などが忙しい」が23.2%、「きっかけがつかめない」が15.9%となっています。



(4)学んだ内容の活用等について

これまで学んだ内容を話したり、自分の仕事や日常生活、他人や地域のために活かしたことがある人の割合は75.7%です。また、活かしたいと思わない人の割合は10.3%です。

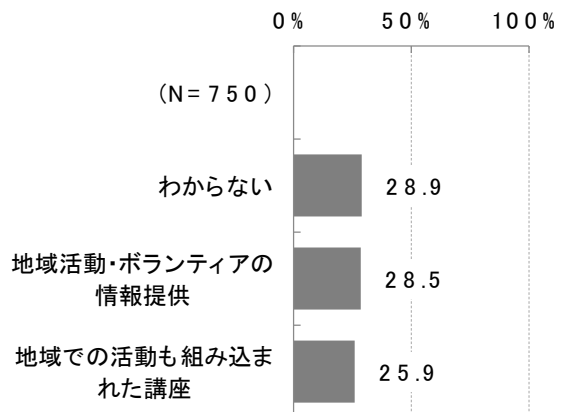
活用等の状況を見ると、「家族や友人に話した」が52.1%と最も多く、次いで「自分の家庭や日常生活に活かした」が26.7%、「職場の同僚や地域の知人に話した」が24.1%となっています。



※これまで学んだ内容を話したり、自分の仕事や日常生活、他人や地域のために活かしたことがある人の割合は、100%から「他人や地域のために活かしたいが、機会がない」(6.9%)と「活かしたいと思わない」(10.3%)、「無回答」(7.1%)を除いて求めています。

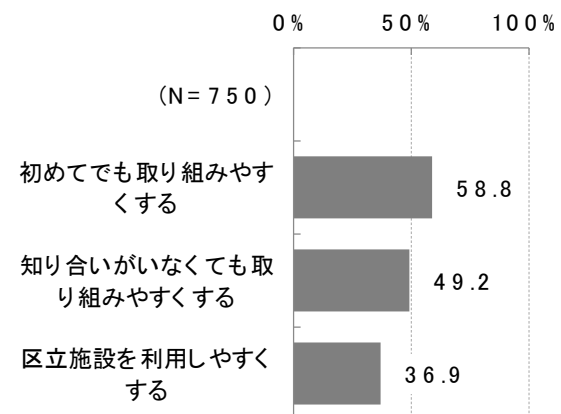
(5)学んだ内容を活用しやすくなるための取組について

区民が学習活動で得た内容を地域や他人のために活かすために、区がより力を入れるべき取組をみると、「わからない」が28.9%と最も多く、次いで「地域活動・ボランティアの情報提供」が28.5%、「地域での活動も組み込まれた講座」が25.9%となっています。



(6)区が力を入れるべき取組の視点について

文京区で学習活動を行う人が増えるために、区がより力を入れるべき取組の視点をみると、「初めてでも取り組みやすくする」が58.8%と最も多く、次いで「知り合いがいなくても取り組みやすくする」が49.2%、「区立施設を利用しやすくする」が36.9%となっています。

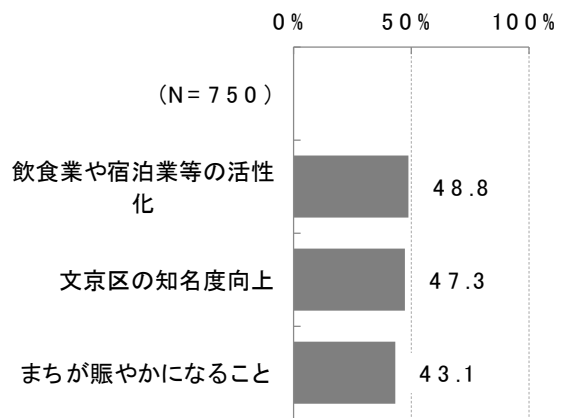


※国の調査は、内閣府(平成30年)「生涯学習に関する世論調査」と比較しています。

4 観光に関する項目について

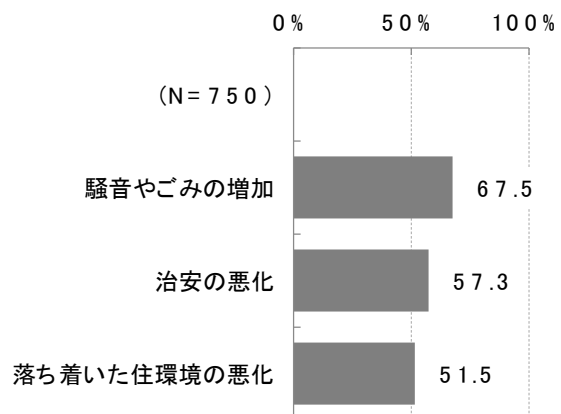
(1)観光客が増えることに対する期待について

区内への観光客の増加における良いことをみると、「飲食業や宿泊業等の活性化」が48.8%と最も多く、次いで「文京区の知名度向上」が47.3%、「まちが賑やかになること」が43.1%となっています。



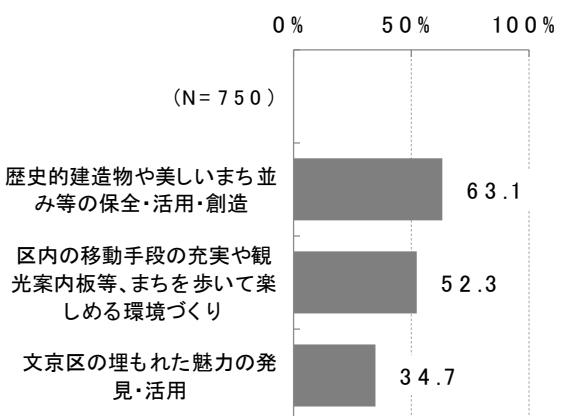
(2)観光客が増えることに対する不安について

区内への観光客の増加における不安なことをみると、「騒音やごみの増加」が67.5%と最も多く、次いで「治安の悪化」が57.3%、「落ち着いた住環境の悪化」が51.5%となっています。



(3)区が力を入れるべき取組について

観光を振興するにあたり、区がより力を入れるべき取組をみると、「歴史的建造物や美しいまち並み等の保全・活用・創造」が63.1%と最も多く、次いで「区内の移動手段の充実や観光案内板等、まちを歩いて楽しめる環境づくり」が52.3%、「文京区の埋もれた魅力の発見・活用」が34.7%となっています。



(4)観光資源に活用すべき資源について

文京区の観光資源のうち、観光振興に活用するとよいと思う具体的な資源をみると、「六義園」(78.4%)、「森鷗外」・「夏目漱石」(68.9%)、「花の五大まつり(さくらまつり、つつじまつり、あじさいまつり、菊まつり、梅まつり)」(64.7%)、「湯島天満宮」(75.1%)、「東京ドーム」(70.4%)が多くなっています。

下表は、観光資源のうち、「史跡・名勝・公園・建造物等」、「観光イベント」、「寺社仏閣」に関する上位3位までの項目の割合を示しています。

<史跡・名勝・公園・建造物等>

順位	観光資源	割合
1位	六義園	78.4%
2位	小石川後樂園	68.3%
3位	小石川植物園	55.6%

<観光イベント>

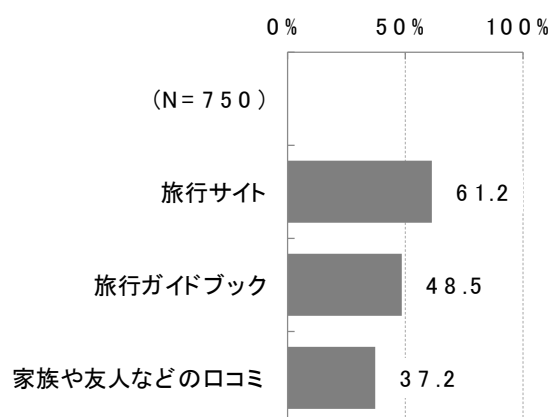
順位	観光資源	割合
1位	花の五大まつり(さくらまつり、つつじまつり、あじさいまつり、菊まつり、梅まつり)	64.7%
2位	根津・千駄木下町まつり	47.5%
3位	文京朝顔・ほおずき市	36.5%

<寺社仏閣>

順位	観光資源	割合
1位	湯島天満宮	75.1%
2位	根津神社	71.9%
3位	護国寺	52.3%

(5)観光に関する情報入手方法について

海外または国内の観光に関する情報入手方法をみると、「旅行サイト」が61.2%と最も多く、次いで「旅行ガイドブック」が48.5%、「家族や友人などの口コミ」が37.2%となっています。

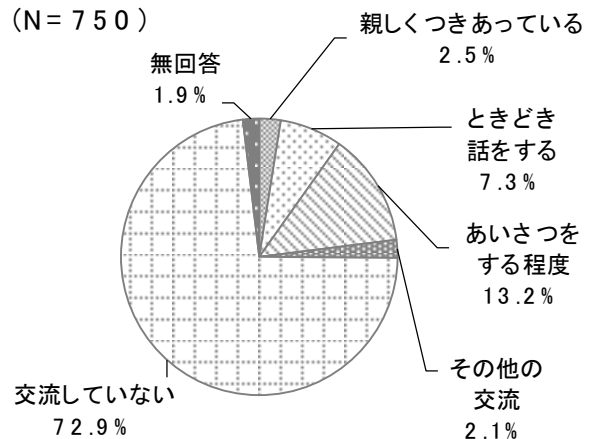


5 国内・国際交流に関する項目について

(1)区内における外国人との交流状況について

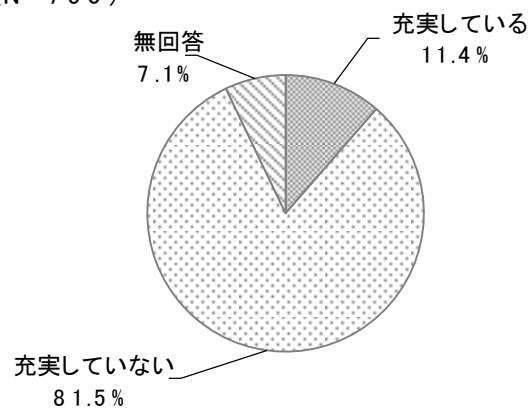
区内において外国人（訪日・在住問わず）と交流のある人の割合は25.2%であり、前回調査（30.6%）と比べて低くなっています。

交流状況を見ると、「交流していない」が72.9%と最も多く、次いで「あいさつをする程度」が13.2%、「ときどき話をする」が7.3%となっています。



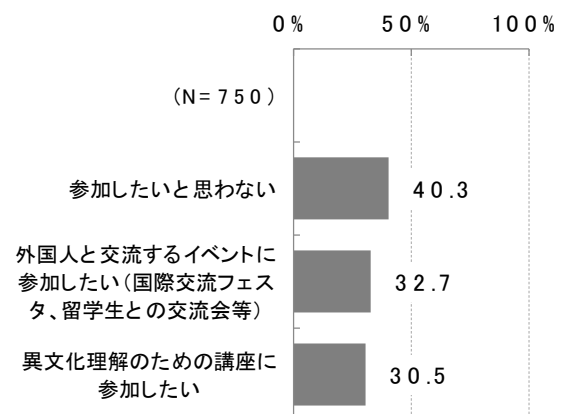
(2)外国人との交流機会の充実さについて

区内において外国人（訪日・在住問わず）との交流機会の充実さをみると、「充実している」が11.4%（「充実している」と「どちらかといえば充実している」の合計）、「充実していない」が81.5%（「充実していない」と「どちらかといえば充実していない」の合計）となっています。



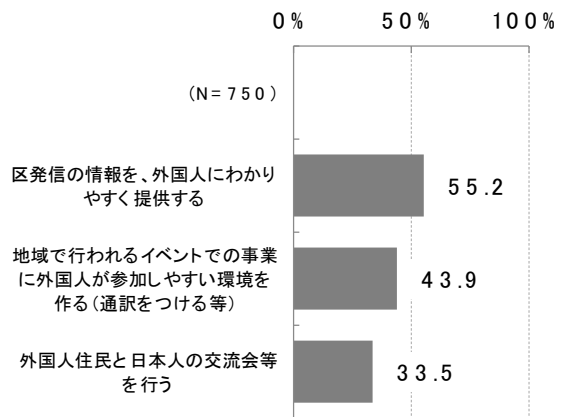
(3)区が主催する国際交流のための講座やイベントへの参加意向について

区が主催する国際交流のための講座やイベントへの参加意向をみると、「参加したいと思わない」が40.3%と最も多く、次いで「外国人と交流するイベントに参加したい（国際交流フェスタ、留学生との交流会等）」が32.7%、「異文化理解のための講座に参加したい」が30.5%となっています。



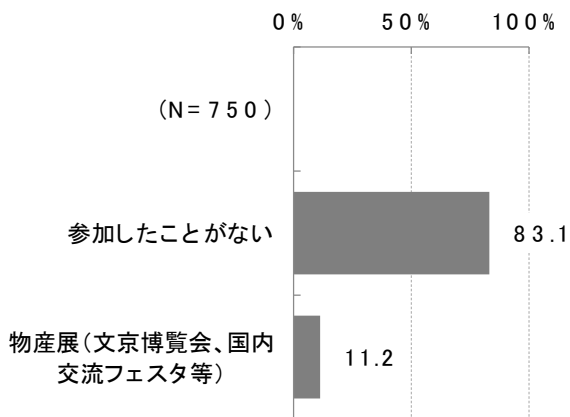
(4)区が外国人との交流の推進に向けて力を入れるべき取組について

外国人（訪日・在住問わず）との交流の推進に向けて、区がより力を入れるべき取組をみると、「区発信の情報を、外国人にわかりやすく提供する」が55.2%と最も多く、次いで「地域で行われるイベントでの事業に外国人が参加しやすい環境を作る（通訳をつける等）」が43.9%、「外国人住民と日本人の交流会等を行う」が33.5%となっています。



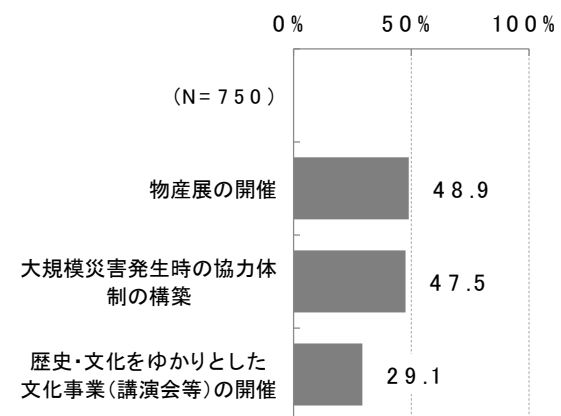
(5)国内交流事業の参加状況について

国内交流事業の参加状況をみると、「参加したことがない」が83.1%と最も多く、次いで「物産展（文京博覧会、国内交流フェスタ等）」が11.2%となっています。



(6)区が国内交流の促進に向けて力を入れるべき取組について

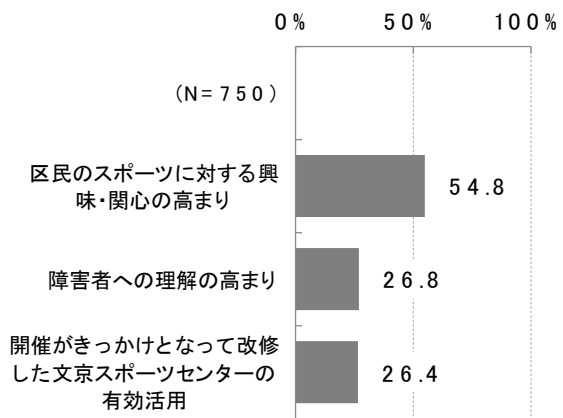
国内交流の促進に向けて、区がより力を入れるべき取組をみると、「物産展の開催」が48.9%と最も多く、次いで「大規模災害発生時の協力体制の構築」が47.5%、「歴史・文化をゆかりとした文化事業（講演会等）の開催」が29.1%となっています。



6 横断的施策に関する項目について

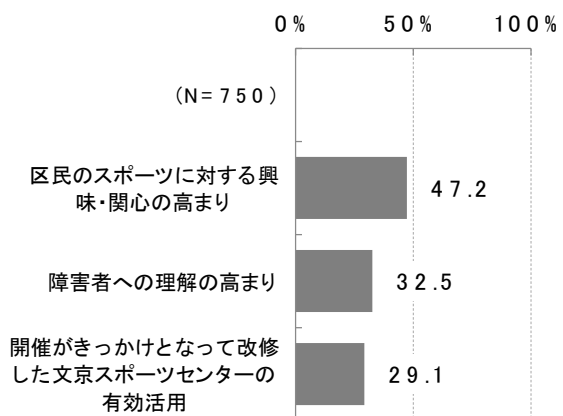
(1) 東京 2020 大会の開催決定によりもたらされたことについて

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会（以下、「東京 2020 大会」という。）の開催決定により、文京区にもたらされたことをみると、「区民のスポーツに対する興味・関心の高まり」が 54.8%と最も多く、次いで「障害者への理解の高まり」が 26.8%、「開催がきっかけとなって改修した文京スポーツセンターの有効活用」が 26.4%となっています。



(2) 東京 2020 大会の開催後に期待することについて

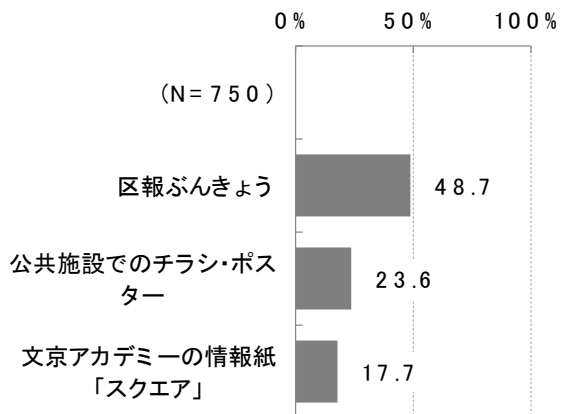
東京 2020 大会の開催後、文京区にもたらされる効果として期待するものをみると、「区民のスポーツに対する興味・関心の高まり」が 47.2%と最も多く、次いで「障害者への理解の高まり」が 32.5%、「開催がきっかけとなって改修した文京スポーツセンターの有効活用」が 29.1%となっています。



(3) 区の取組における情報入手方法について

スポーツ、文化芸術、学習活動、国内・国際交流に関する区の取組についての情報入手方法をみると、どの分野であっても「区報ぶんきょう」が最も多くなっています。

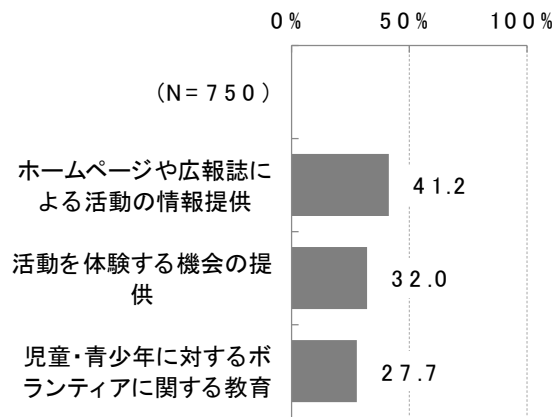
右図は、文化芸術の情報入手方法の割合を示しています。



(4) ボランティア活動の充実に向けてについて力を入れるべき取組について

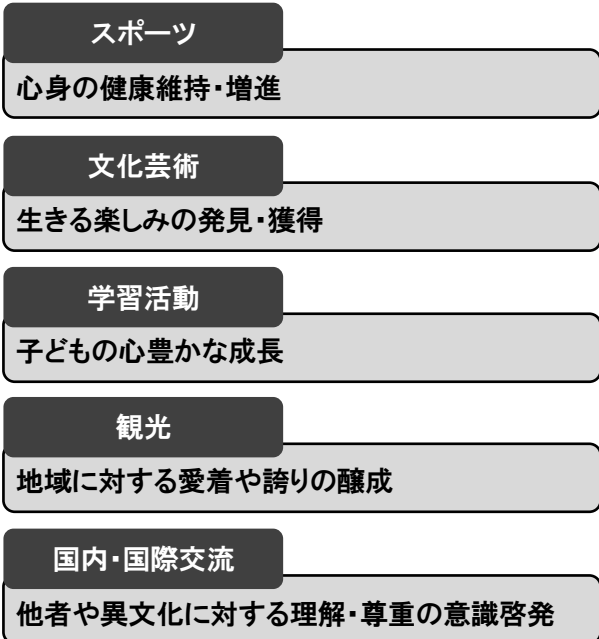
スポーツ、文化芸術、学習活動、観光、国内・国際交流に関するボランティア活動の充実に向けて、区がより力を入れるべき取組をみると、「ホームページや広報誌による活動の情報提供」が最も多くなっています。

右図は、学習活動に関するボランティア活動の充実に向けて、区がより力を入れるべき取組の割合を示しています。



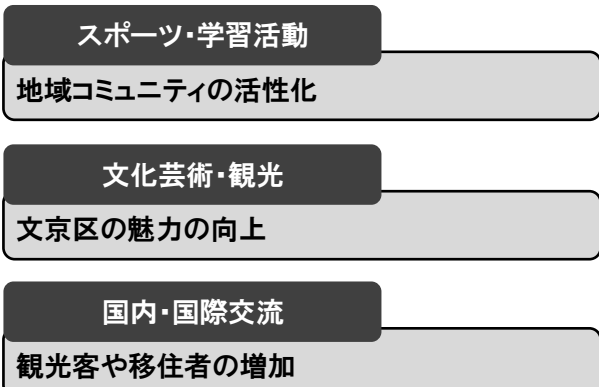
(5) 各分野の施策が個人にもたらす効果について

スポーツ、文化芸術、学習活動、観光、国内・国際交流の各分野の施策に区が力を入れた場合、個人にもたらされる効果をみると、スポーツは「心身の健康維持・増進」、文化芸術は「生きる楽しみの発見・獲得」、学習活動は「子どもの心豊かな成長」、観光は「地域に対する愛着や誇りの醸成」、国内・国際交流は「他者や異文化に対する理解・尊重の意識啓発」が最も多くなっています。



(6) 各分野の施策が地域にもたらす効果について

スポーツ、文化芸術、学習活動、観光、国内・国際交流の各分野の施策に区が力を入れた場合、地域にもたらされる効果をみると、スポーツと学習活動は「地域コミュニティの活性化」、文化芸術と観光は「文京区の魅力の向上」、国内・国際交流は「観光客や移住者の増加」が最も多くなっています。



7 分野別の関心・行動の度合いに視点を置いた分析

(1)分析概要について

①分析目的

スポーツ、文化芸術、学習活動におけるそれぞれの関心・行動の度合いに着目し、性別や年代等の基本属性、各分野の行動していない理由、各分野に親しむ人が増えるために力を入れるべき施策等について、関心・行動の度合い別による特徴を把握するために分析を行いました。

②各分野における関心・行動の度合いの定義

各分野における関心・行動の度合いは、①関心がなく行動しなかった人（以下「無関心層」という。）、②関心はあるが行動しなかった人（以下「関心層」という。）、③関心があつて行動した人（以下「行動層」という。）の3つのグループに分類しました。3グループの具体的な定義は次のとおりです。

各分野の「無関心層」・「関心層」・「行動層」の定義

分野	分類	関心の有無	行動の有無
スポーツ	無関心層	「スポーツや運動」に関心がなく、 <u>かつ</u>	過去1年間で スポーツや運動を実施しなかった人
	関心層	「スポーツや運動」に関心があり、 <u>かつ</u>	週1日以上 スポーツや運動を実施しなかった人
	行動層	「スポーツや運動」に関心があり、 <u>かつ</u>	週1日以上 スポーツや運動を実施した人
文化芸術	無関心層	「文化芸術」に関心がなく、 <u>かつ</u>	過去1年間で 文化芸術を鑑賞しなかった人
	関心層	「文化芸術」に関心があり、 <u>かつ</u>	
	行動層	「文化芸術」に関心があり、 <u>かつ</u>	過去1年間で 文化芸術を鑑賞した人
学習活動	無関心層	「学習活動」に関心がなく、 <u>かつ</u>	過去1年間で 学習活動をしなかった人
	関心層	「学習活動」に関心があり、 <u>かつ</u>	
	行動層	「学習活動」に関心があり、 <u>かつ</u>	過去1年間で 学習活動をした人

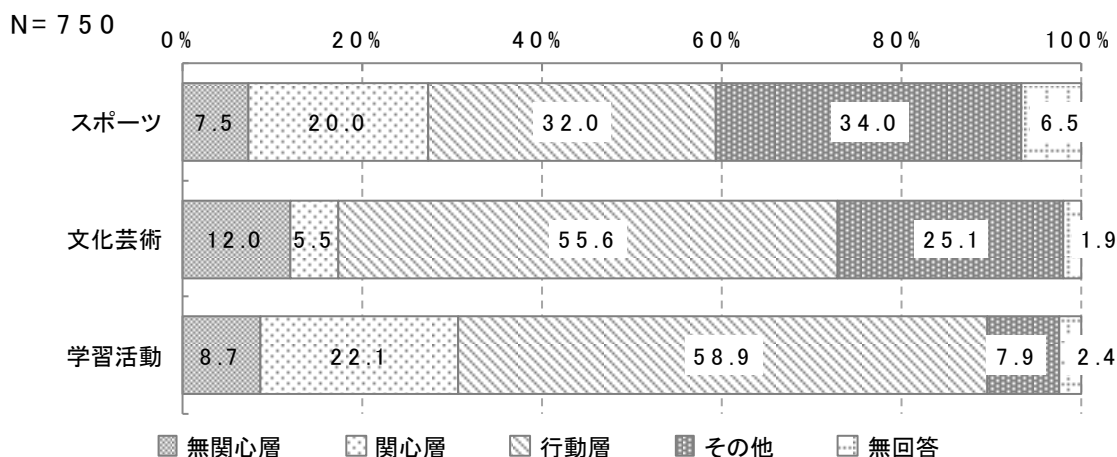
注) 各分野について、関心はないが、行動した人は除く。

(2)関心・行動の度合いの分布について

スポーツは、「無関心層」が7.5%、「関心層」が20.0%、「行動層」が32.0%となっています。

文化芸術は、「無関心層」が12.0%、「関心層」が5.5%、「行動層」が55.6%を超えています。

学習活動は、「無関心層」が8.7%、「関心層」が22.1%、「行動層」が58.9%となっています。



(3)区が力を入れるべき施策

3分野それぞれにおいて区が力を入れるべき施策について、スポーツの関心・行動の度合い別にみると、上位2位までは全体と同じく「初心者が取り組みやすくする」、「ひとりでも取り組みやすくする」とおおむね同じ傾向にあります。上位3位に着目すると、全体では「区立スポーツ施設を利用しやすくする」に対して、無関心層は「働いている人が取り組みやすくする」となっています。

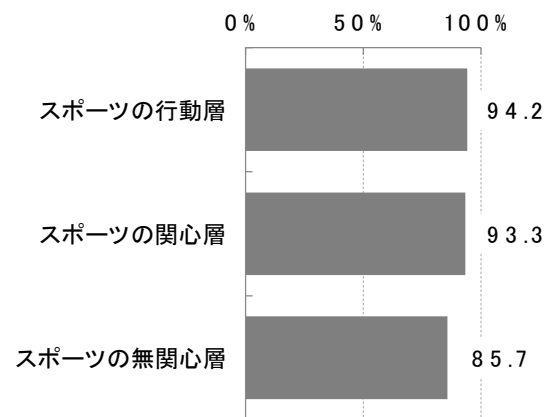
文化芸術の関心・行動の度合い別にみると、上位1位は「気軽に親しみやすい場づくり」であり、全体と同じ傾向にあります。上位2位に着目すると、全体では「区立施設を利用しやすくする」に対して、無関心層と関心層は「高齢者が親しみやすくする」、関心層と行動層は「文化芸術を鑑賞する場の情報を発信する」となっています。

学習活動の関心・行動の度合い別にみると、上位1位は「初めてでも取り組みやすくする」であり、全体と同じ傾向にあります。上位2位に着目すると、全体では「知り合いがいなくても取り組みやすくする」に対して、無関心層は「高齢者が親しみやすくする」となっています。

(5)文京区に対する愛着の度合い

3分野ともに、無関心層よりも、関心層と行動層の方が文京区に「愛着がある」と回答した人の割合が多くなっています。

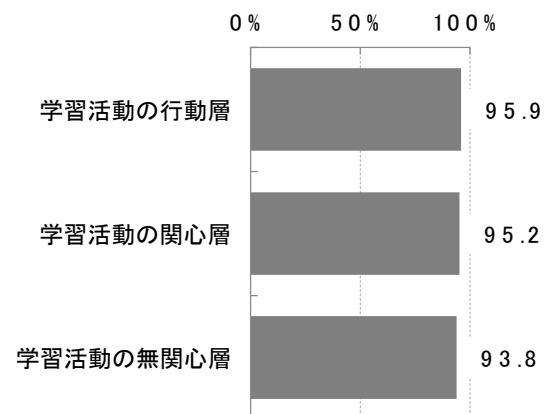
右図は、スポーツの関心・行動の度合い別に、文京区に「愛着がある」と回答した人の割合を示しています。



(6)文京区での継続居住意向

3分野ともに、文京区に「住み続けたい」と回答した人の割合に大きな差はみられませんでした。

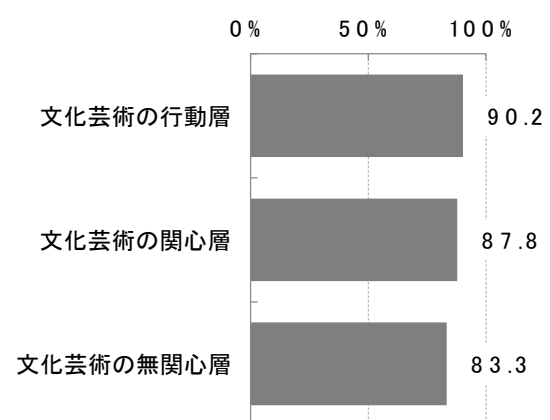
右図は、学習活動の関心・行動の度合い別に、文京区に「住み続けたい」と回答した人の割合を示しています。



(7)文京区の推奨度合い

3分野ともに、関心・行動の度合いが上がる（無関心層→関心層→行動層）につれて、文京区を「勧めたい」と回答した人の割合が多くなっています。

右図は、文化芸術の関心・行動の度合い別に、文京区を「勧めたい」と回答した人の割合を示しています。



(8)近所づきあい等の有無

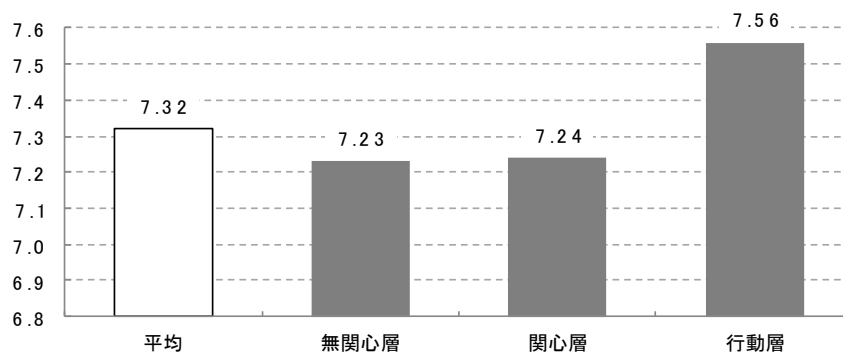
近所づきあいの状況をみると、3分野ともに、無関心層よりも、関心層と行動層の方が「近所づきあい等がある」が多くなっています。

文京区内に住み人とのつながり度合いについて、3分野における関心・行動の度合い別にみると、全体では「つながりのある人はいない」が多くなっているのに対して、スポーツと文化芸術の行動層は「つながりのある人はいる」が多くなっています。

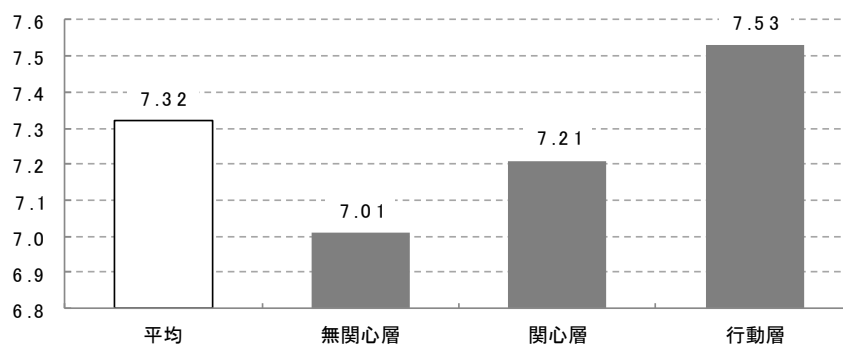
(9)生活満足度

生活満足度をみると、3分野ともに、行動層の生活満足度の平均点が高くなっています。また、関心・行動の度合いが上がる（無関心層→関心層→行動層）につれて、生活満足度の平均点が高くなっています。

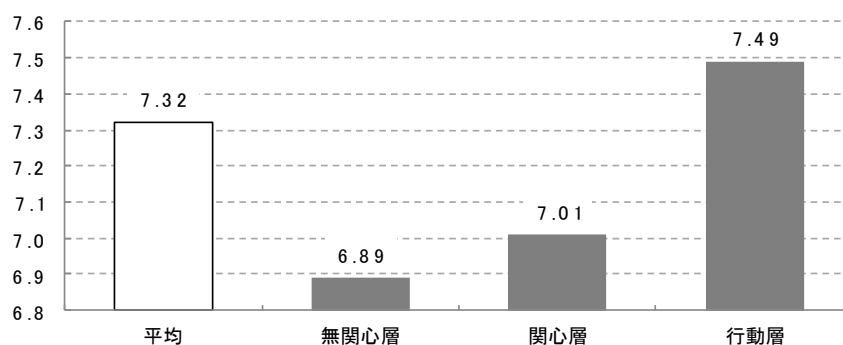
スポーツの関心・行動の度合い



文化芸術の関心・行動の度合い



学習活動の関心・行動の度合い



8 分野別目標の評価に関する分析

(1)分析概要

①分析目的

スポーツ、文化芸術、学習活動、観光、国内・国際交流の5分野における分野別目標の満足度と重要度に着目し、「満足度と重要度を組み合わせた分析」、「一般区民と事業参加者との比較による分析」の2つの視点に基づいて、各分野に対する区民の評価を把握するために分析を行いました。

②分野別目標における満足度と重要度の平均値

分野別目標における満足度（重要度）は、「満足（重要）ではない」、「どちらかといえば満足（重要）ではない」、「どちらかといえば満足（重要）である」、「満足（重要）である」の4段階で尋ねています。

これら4つの選択肢について、「満足（重要）ではない」から「満足（重要）である」までを1点～4点と配点し、分野別目標における満足度（重要度）の平均値を次のとおり算出しました。

分野	目標	満足度	重要度
スポーツ	①観戦などを通じて、スポーツの楽しさを知る機会を増やすこと	2.32	3.14
	②いつでも、どこでも、だれでも気軽に楽しめるスポーツ活動を充実させること	2.23	3.42
	③スポーツ活動を支える環境を整備すること	2.31	3.46
	④スポーツを通じて仲間をつくり、交流すること	2.27	3.04
	平均値	2.28	3.27
文化芸術	①だれもが文化芸術に親しむことができる環境をつくること	2.44	3.46
	②文化芸術を鑑賞・創造する活動を支援すること	2.38	3.31
	③地域の伝統や文化を守り、伝え、活用する仕組みをつくること	2.38	3.36
	平均値	2.40	3.38
学習活動	①いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会を提供し、充実させること	2.32	3.52
	②一人ひとりの学びの成果を生かす機会を提供し、充実させること	2.28	3.16
	③継続した学びの成果を地域に還元すること	2.25	3.05
	平均値	2.28	3.24
観光	①観光資源の発掘や保護を通じて、文京区の魅力や個性をつくり出すこと	2.51	3.37
	②情報を収集し、発信することで、観光客を増やすこと	2.44	3.21
	③だれもが観光に訪れたいまちを支える仕組みをつくること	2.40	3.24
	平均値	2.45	3.27
国内・国際交流	①情報をわかりやすく発信し、国際交流を促進する機会をつくること	2.28	3.34
	②外国人が快適に過ごせる環境をつくること	2.33	3.24
	平均値	2.31	3.29
全分野の平均値		2.34	3.29

注) 国内・国際交流における②の目標の満足度・重要度の解釈について、施策対象は外国人ですが、本調査の回答者の多くが日本人であることを留意する必要があります。

(2)分野別目標における満足度と重要度を組み合わせた分析について

重要度が高いにも関わらず、満足度の低い分野別目標は、スポーツの「いつでも、どこでも、だれでも気軽に楽しめるスポーツ活動を充実させること」、「スポーツ活動を支える環境を整備すること」、学習活動の「いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会を提供し、充実させること」、国内・国際交流の「情報をわかりやすく発信し、国際交流を促進する機会をつくること」の4つとなっています。

重要度が高いにも関わらず、満足度の低い分野別目標

スポーツ

- いつでも、どこでも、だれでも気軽に楽しめるスポーツ活動を充実させること
- スポーツ活動を支える環境を整備すること

学習活動

- いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会を提供し、充実させること

国内・国際交流

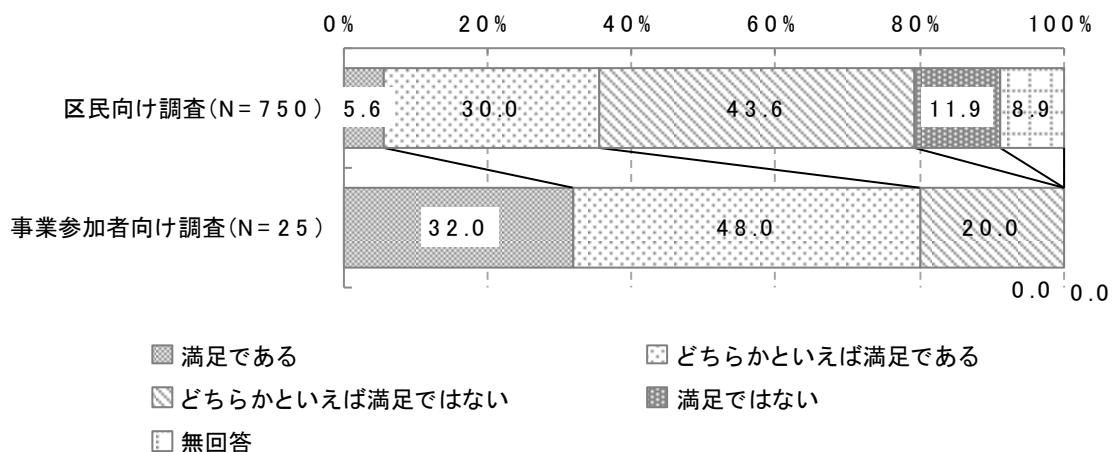
- 情報をわかりやすく発信し、国際交流を促進する機会をつくること

(3)一般区民と事業参加者との満足度の比較による分析

「区民向け調査」と「事業参加者向け調査」において、それぞれスポーツ、文化芸術、学習活動、観光、国内・国際交流の5分野における分野別目標の満足度を比較しました。

全ての分野における目標について、一般区民と比べて事業参加者の満足度の方が高くなっています。

下図は、「区民向け調査」と「事業参加者向け調査」において、スポーツの分野別目標である「観戦などを通じて、スポーツの楽しさを知る機会を増やすこと」に対して、満足しているかどうかの割合をそれぞれ示しています。



調査概要

(1)調査目的

令和2年度に予定している「文京区アカデミー推進計画」の改定に向けて、同計画が対象とするスポーツ、文化芸術、学習活動、観光、国内・国際交流の5つの分野に関する区民の皆様の意識や活動の実態を把握するため、実態調査を行いました。

なお、5つの分野に関する満足度を多角的に把握するため、一般区民に加えて当該分野の事業参加者にも調査を行いました。

(2)調査方法

①区民向け調査

住民基本台帳から無作為に抽出し、郵送配付及び郵送回収（インターネットによる回答可）にて実施しました。

②事業参加者向け調査

事業参加者にQRコードを記載したアンケートを配付し、インターネットによる回答にて実施しました。

(3)調査期間

①区民向け調査

令和元年9月20日（金）～10月11日（金）

②事業参加者向け調査

令和元年11月1日（金）～12月9日（月）

(4)調査対象・回収数

①区民向け調査

満20歳以上の区民

配付数	有効回答数	有効回答率
2,000件	750件	37.5%

注）インターネットによる回答件数は750件のうち100件です。

②事業参加者向け調査

スポーツ、文化芸術、学習活動、観光、国内・国際交流の5つの分野に関する事業の参加者

有効回答数
150件

注）事業参加者へは不特定多数に配付しているため、有効回答数のみ掲載します。